

調査レポート

沖縄県におけるスポーツツーリズムの実態調査

《共同調査について》

りゅうぎん総合研究所と一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（以下、OCVB）は沖縄県におけるスポーツツーリズムの実態について共同で調査しました。

OCVBにて県外からのスポーツ大会来場者向けのアンケート調査を実施し、りゅうぎん総合研究所にてその集計結果を分析し、調査レポートとしてまとめました。両社は今後とも適宜連携しながら「スポーツアイランド沖縄」の形成のため、調査を実施してまいります。

《要旨》

・沖縄県はスポーツ推進計画のアウトナー施策の一環として「スポーツツーリズムの推進」を掲げている。2019年度まではスポーツ大会などの件数増加に伴い、国内入域観光客数に占めるスポーツ関連目的旅行者の割合も増加傾向にあったが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大きく減少した。今後、旅行者の増加が見込まれる中、スポーツを通じた地域・経済のさらなる活性化のため、スポーツを取り巻く環境の変化に対応した戦略的なスポーツツーリズムの誘客促進策の検討が求められる。

・OCVBにて、2023年11月から2024年1月にかけて、県外からの参加が多い4つのスポーツ大会（Bリーグ、ツール・ド・おきなわ、石垣島マラソン、NAHAマラソン）の県外（国内・海外）からの来場者を対象にアンケート調査を実施した。その集計結果をもとに、調査対象の大会を「観るスポーツ」、「するスポーツ」にて大別し、来場者の属性・旅行内容・消費額について当社にて比較と分析をおこなった。また、アンケートの総費用（渡航代含む）にかかる回答と県外からの参加者数をもとに各大会における直接支出額を試算した。その結果、NAHAマラソンの直接支出額は約5.6億円～7.6億円となり、大会別では最も高くなることが推計された。また、一人当たりの平均直接支出額はツール・ド・おきなわが約11万円となり、大会別では最も高くなることが推計された。直接支出額への貢献度が高い属性について、観るスポーツにおいては「30代の女性」、するスポーツについては「50代の男性」が最も多く、アンケート調査結果における来場者数が最多の属性と一致し、それぞれ貢献度が高いことが推測される。

・これらの結果から、スポーツツーリズムの誘客にあたり、来場者数の増加及び質の向上、消費額の増加が課題であることがわかった。来場者数の増加を図る上で、観るスポーツとするスポーツでは、来場者の年代も異なることから、ターゲット層にリーチする戦略的なプロモーションが求められるほか、本県へのスポーツツーリズムでの誘客を図る上で地域・観光拠点となるスポーツ関連施設の整備・充実化も必要となる。また、各大会とも一人当たりの平均直接支出額は一般観光と比較して低くなることが推測される結果となったが、県外からの来場者の7割程は大会前後で一般観光を行っている事から、会場周辺の飲食・観光情報発信の強化だけでなく、沖縄全体を周遊させるコンテンツ造成の検討が求められる。

目次

| | | |
|----|------------------------------|----|
| 1. | はじめに..... | 1 |
| 2. | 沖縄県におけるスポーツツーリズムの現状..... | 1 |
| | (1) 沖縄県におけるスポーツツーリズムの現状..... | 1 |
| | (2) 第2期沖縄県スポーツ推進計画..... | 2 |
| | (3) スポーツ観光戦略的誘客促進事業..... | 3 |
| 3. | アンケート調査結果分析..... | 4 |
| | (1) 属性による比較..... | 6 |
| | ① 居住地..... | 6 |
| | ② 性別および年代..... | 7 |
| | ③ 年収..... | 8 |
| | (2) 旅行内容による比較..... | 9 |
| | ① 同行者..... | 9 |
| | ② 滞在日数..... | 10 |
| | ③ 宿泊施設..... | 11 |
| | (3) 消費額による比較..... | 12 |
| | ① 移動費(渡航代・県内移動費)..... | 12 |
| | ② 宿泊費..... | 13 |
| | ③ 会場内消費..... | 14 |
| | (4) アンケート調査結果のまとめ..... | 15 |
| | ① 観るスポーツ..... | 15 |
| | ② するスポーツ..... | 15 |
| | ③ 一般観光との比較..... | 15 |
| 4. | 直接支出額の試算..... | 16 |
| | (1) 直接支出額の試算..... | 16 |
| | ① スポーツ大会別の直接支出額..... | 16 |
| | ② 一人あたりの平均直接支出額..... | 17 |
| | (2) 直接支出額への貢献度が高い属性..... | 17 |
| | ① 直接支出額が高い費用帯..... | 17 |
| | ② 直接支出額への貢献度が高い属性..... | 18 |
| 5. | スポーツツーリズムの課題の整理..... | 19 |
| | (1) 来場者数の増加および質の向上..... | 19 |
| | (2) 消費額の増加..... | 19 |
| | (3) スポーツ関連施設の整備・充実化..... | 20 |
| 6. | 最後に..... | 20 |
| 7. | 添付資料..... | 21 |

1. はじめに

沖縄県では、プロ野球キャンプ、バスケットボールリーグ（Bリーグ）などの観戦型スポーツからマラソン大会などの参加型スポーツまで、年間を通して様々なスポーツイベントが開催されている。このようなスポーツイベントを観光資源とした「スポーツツーリズム」が地方への観光誘客効果の高いコンテンツとして全国的に注目されている。沖縄県においても「第2期沖縄県スポーツ推進計画」（2022年3月）の基本施策として「スポーツツーリズムの推進」を掲げており、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（以下、OCVB）などの観光団体やスポーツ団体と連携し、県内で開催されるスポーツイベントや本県のスポーツにふさわしい環境条件をいかしたスポーツ交流拠点の形成等を通じて、県外からの観光誘客促進を図っている。

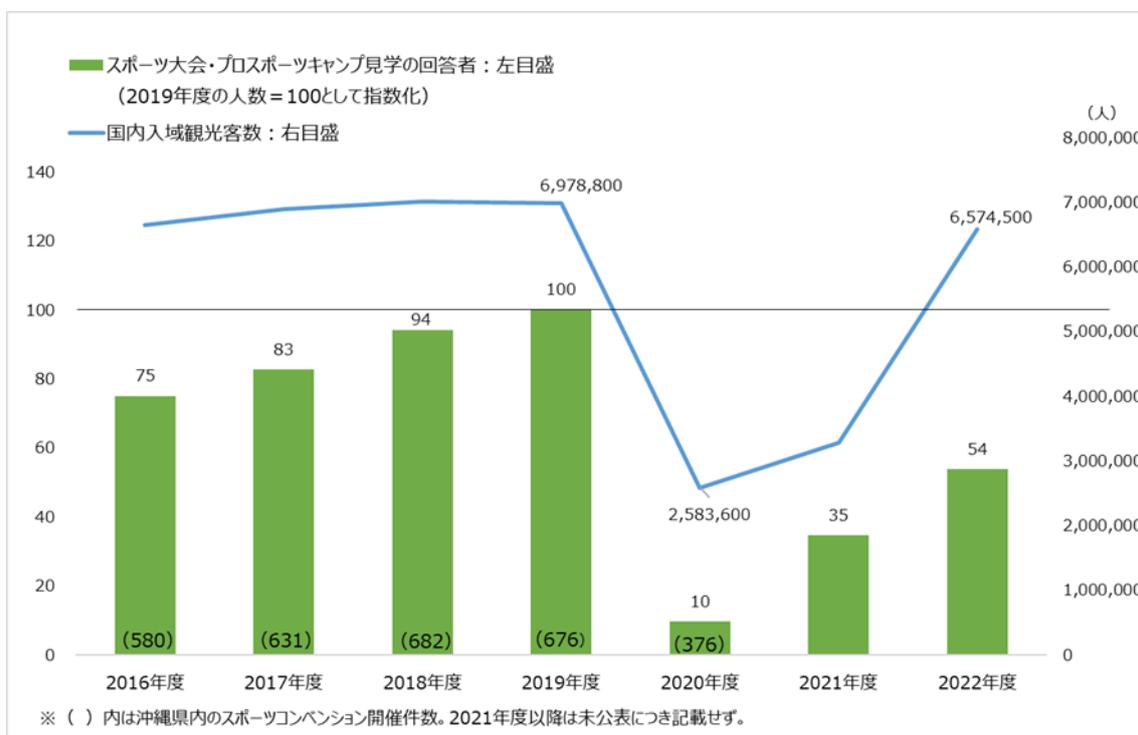
本レポートではOCVBが沖縄県より受託した「スポーツ観光戦略的誘客促進事業」の一環として、同財団が実施したアンケート調査「スポーツ大会参加に係る実態調査」（2023年11月～2024年1月）の結果をもとに、各大会の来場者の属性や旅行内容、消費額について集計し、その特徴を分析した。また、各大会の直接支出額の推計や最も直接支出額への貢献度が高い属性を分析し、スポーツツーリズムの誘客促進に向けた課題をまとめた。

2. 沖縄県におけるスポーツツーリズムの現状

（1） 沖縄県におけるスポーツツーリズムの現状

沖縄県のスポーツ関連目的旅行者の割合は、2016年度から2019年度において増加したものの、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け大きく減少した（図表1）。今後、旅行者の増加が見込まれる中、スポーツを通じた地域・経済のさらなる活性化のため、スポーツを取り巻く環境の変化に対応した戦略的なスポーツツーリズムの誘客促進策の検討が求められる。沖縄観光の課題である閑散期と繁忙期の平準化や長期滞在傾向等による経済効果増大に寄与するスポーツコンベンションの推進、沖縄県の魅力的なスポーツ環境のプロモーションの展開、沖縄のソフトパワーを活用した高付加価値コンテンツの開発および促進が求められている。

図表1 沖縄県における国内入域観光客数の推移およびスポーツ関連目的旅行者の指数¹



出所：沖縄県「観光統計実態調査」および「スポーツコンベンション開催実績一覧」をもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

（2） 第2期沖縄県スポーツ推進計画

沖縄県は「新たな振興計画（新・沖縄21世紀ビジョン基本計画）」（2021年5月）におけるスポーツ関連施策として『世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成』を掲げ、その個別計画として2026年度までの5年間の計画期間とする「第2期沖縄県スポーツ推進計画（以下、スポーツ推進計画）」（2022年3月）を策定した。スポーツ推進計画では、「スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成」を基本施策の一つとし、そのツーリズムにおける施策の一環として「スポーツツーリズムの推進」を掲げている。ここでは、サイクルツーリズム、みるスポーツ、県内スポーツイベント等への参加を目的とした誘客促進を図る取り組みのほか、スポーツ観光を推進し消費単価の拡大に向けた取り組みを示している。

沖縄県は、世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成に向け沖縄の特性を活かした本県におけるスポーツ振興の基本理念として4点を示している（図表2）。

¹ 2019年度=100として指数化。2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から4-6月期、7-9月期の調査は実施せず。同時期はスポーツ大会・キャンプなどの開催件数もわずかであったため、回答割合は0%として試算

図表2 「スポーツアイランド沖縄」の形成に向けた基本理念

1. 県民が健康・長寿であるため生涯を通してスポーツを楽しむこと
2. 国内外で活躍するトップアスリートを輩出すること
3. 我が国の南端のスポーツ交流拠点として年間を通じたスポーツコンベンションが開催されること
4. 沖縄の地理的特徴や恵まれた自然・温暖な気候、特色ある地域・文化・産業とスポーツを関連づけ、スポーツの持つソフトパワーを活用することにより、地域・経済の活性化につながる取り組みが全県的に行われていること

出所：沖縄県「第2期沖縄県スポーツ推進計画」より抜粋

(3) スポーツ観光戦略的誘客促進事業

「スポーツ観光戦略的誘客促進事業」は、スポーツツーリズムの普及・定着を図るため、県内で実施されているスポーツイベントや本県のスポーツ環境の魅力や優位性を県外・国外等においてプロモーションを実施することで、本県への観光誘客を促進するとともに、沖縄におけるスポーツを通じた「稼ぐ力」を引き出し、世界にはばたき躍動する「スポーツアイランド沖縄」の形成を図ることを目的として、OCVBが沖縄県より委託を受け運営する事業である。主な事業内容は、スポーツ観光誘客にかかるマーケティングリサーチ、消費単価拡大に向けたコンテンツの造成、プロモーションの実施などである（図表3）。

図表3 「スポーツ観光戦略的誘客促進事業」(2023年度)の主な事業内容

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. スポーツ観光誘客におけるマーケティングリサーチの実施<ul style="list-style-type: none">▶大会開催情報やスポーツ旅に係る環境情報の取りまとめ▶各種プロモーションでの情報発信▶<u>県内4件のスポーツ大会(イベント)を対象としたスポーツツーリスト実態調査</u>2. スポーツ観光誘客促進のためのプロモーションの実施<ul style="list-style-type: none">▶国内および海外催事に出展し、誘客効果が見込める競技を中心とした各種プロモーションの展開(マラソン、サイクリングなど)3. スポーツアイランド沖縄の優位性及び魅力の発信<ul style="list-style-type: none">▶プロモーションで使用するパンフレットなどのスポーツ情報発信ツールの作成やスポーツノベルティーの制作▶スポーツアイランド沖縄WEBサイトやSNSの運用・分析4. 消費単価拡大のためのツアー造成及び商談会の実施<ul style="list-style-type: none">▶旅行商品造成を促進するため、旅行会社等を対象としたプロモーションの実施や商談会などへの参加5. 県内スポーツチーム連携プロモーションの実施<ul style="list-style-type: none">▶県内で活動するスポーツチームと連携し、県外での試合やイベントなどへの来場者や関係者に対しスポーツアイランド沖縄の魅力を発信6. スポーツコミッション沖縄との連携<ul style="list-style-type: none">▶スポーツコンベンションの更なる発展を目的に沖縄県スポーツ振興課、沖縄県スポーツ協会、OCVBスポーツチームの三者間で定期的にコミッション会議を実施▶ツーリズムEXPOジャパンやSPORTEC2023へ沖縄県スポーツ協会との共同出展 |
|--|

出所：OCVB「令和5年度スポーツ観光戦略的誘客促進事業」より抜粋

3. アンケート調査結果分析

OCVBは2023年11月～2024年1月において開催された4つのスポーツ大会の「県外(国内・海外)からの来場者」を対象にWEBアンケート形式の実態調査「スポーツ大会参加に係る実態調査」を実施した(図表4、5)。なお、対象のスポーツ大会は県外からの参加者数が多い大会として、沖縄県との協議により選定した。

図表4 調査対象のスポーツ大会概要

| 大会名 | 開催日程 | 開催拠点 | 参加者数 | 概要 |
|--------------------|---------------------------------|-----------------|----------------------------------|---|
| Bリーグオールスター 2024 | 2024.1.12(金) ～2024.1.14(日) | 沖縄市 (沖縄アリーナ) | 13,736名 県外:4,516 県内:9,220 | 毎年1月に開催される国内バスケットボールリーグ(Bリーグ)のオールスターゲーム。2017年よりスタート。開催地はクラブの提案をもとに運営の審査により決定する。出場する選手はファン投票やリーグ推薦などにより決定し、ファンを中心に同リーグの中でも動員の多い人気イベントとなっている。 |
| 第35回ツール・ド・ おきなわ | 2023.11.11(土) ～2023.11.12(日) | 名護市 | 3,176名 県外:1,967 県内:1,209 | 毎年11月の第2土曜日から日曜日にかけて開催される自転車ロードレース大会。1989年よりスタート。沖縄県北部を舞台とし、やんばるの自然を堪能できるイベントとして人気。自転車ロードレースのほかにも距離別・目的別のサイクリングイベントが2日間にわたり行われ、国内最大規模のロードレース大会となっている。 |
| 石垣島マラソン 2024 | 2024.1.21(日) | 石垣市 | 3,410名 県外:2,068 県内:1,342 | 毎年1月の第4日曜日に開催されるマラソン大会。2003年よりスタート。日本最南端のマラソン大会であり、離島ならではのロケーションや気候が楽しめるイベントとして人気。石垣島の主要の観光イベントの1つとなっている。 |
| NAHAマラソン 第37回大会 | 2023.12.3(日) | 那覇市 | 18,874名 県外:7,777 県内:11,097 | 毎年12月の第1日曜日に開催されるマラソン大会。1985年よりスタート。那覇を中心に沖縄本島南部の各市町村を一周する。沖縄県内のマラソンイベントでは最大規模の参加者数を誇り、県内のみならず県外・海外からの参加者も多い。沿道の応援者も多いイベントとなっている。 |

出所：各大会の公式WEBサイトおよびOCVBへのヒアリングをもとにりゅうぎん総合研究所にて作成

※Bリーグの参加者数内訳については運営事務局にて集計したチケット販売割合をもとに算出

図表5 アンケート別の調査期間と回答数

| 大会名 | 調査期間 | 回答数 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----|
| Bリーグオールスター2024 (以降、Bリーグ) | 2024年1月13日(土) ～2024年1月14日(日) | 245 |
| 第35回ツール・ド・おきなわ (以降、ツール・ド・おきなわ) | 2023年11月10日(金) ～2023年11月11日(土) | 252 |
| 石垣島マラソン2024 (以降、石垣島マラソン) | 2024年1月20日(土) | 214 |
| NAHAマラソン第37回大会 (以降、NAHAマラソン) | 2023年12月2日(土) ～2023年12月3日(日) | 326 |

出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

調査対象の4つの大会を下記のように「観るスポーツ」と「するスポーツ」に大別し「属性」、「旅行内容」、「消費額」の3つの観点から、比較や分析をおこなった(図表6)。

図表6 調査対象のスポーツ大会の形態別の分類

| |
|---|
| <p>【観るスポーツ】 Bリーグ</p> <p>【するスポーツ】 ツール・ド・おきなわ、石垣島マラソン、NAHA マラソン</p> |
|---|

出所：りゅうぎん総合研究所

なお、調査対象の大会について、上記の分類別の比較を基本とするが、大会ごとに特徴がみられる場合は大会別に比較をした。また、必要に応じて沖縄県の観光関連の統計資料をもとに県外からの一般的な観光（以下、一般観光）との比較をした。

※アンケート集計結果の全容については本文の添付資料を参照。

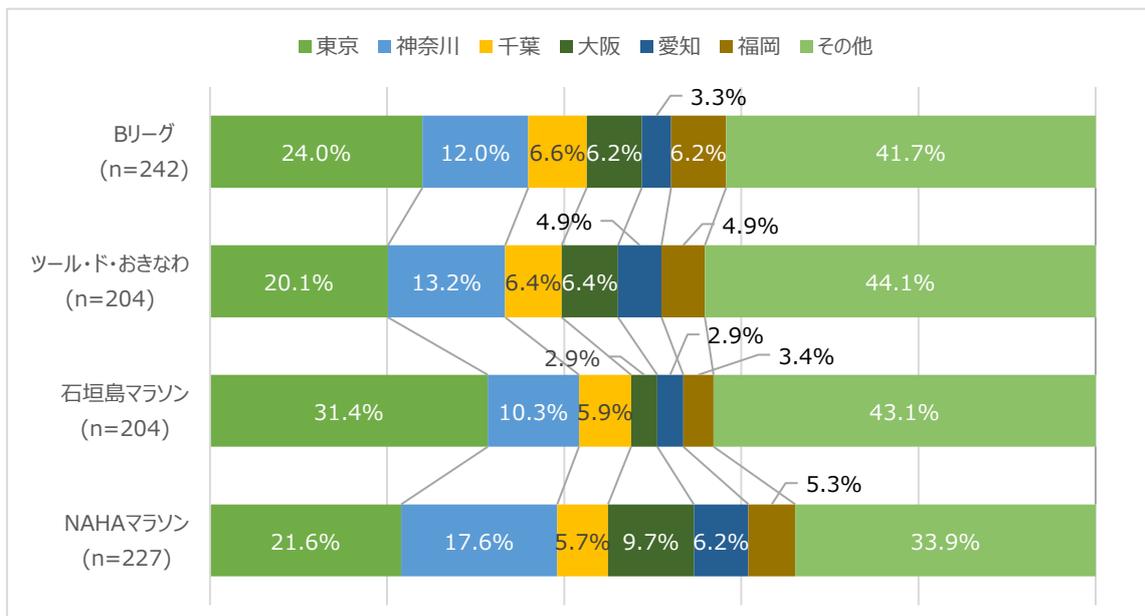
(1) 属性による比較

まず初めに、大会来場者の属性について①居住地、②性別および年代、③年収の3つの観点から比較・分析した。

① 居住地

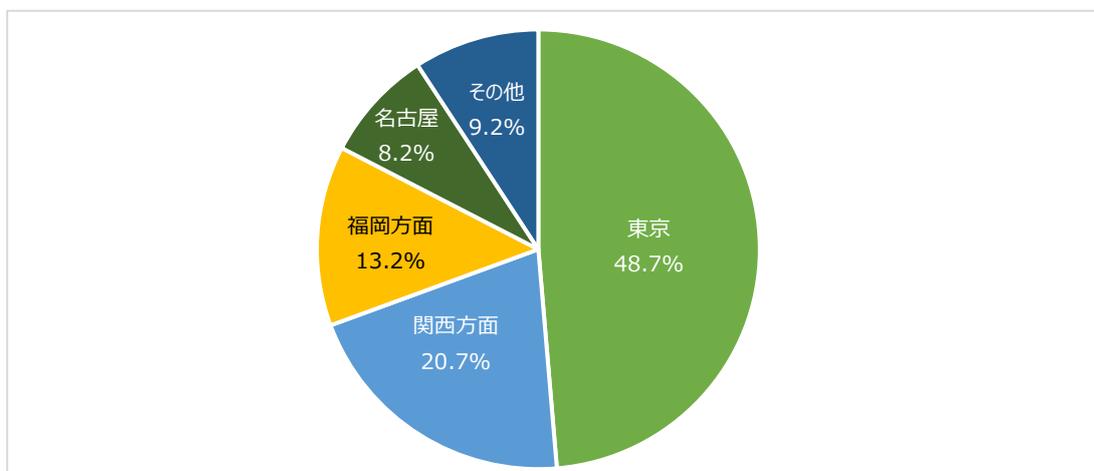
各大会ともにアンケート回答者の約7割以上が県外（国内）からの来場者となり、その居住地の内訳については、「東京」が最も高い割合となった。次に神奈川県や千葉の関東圏、大阪、愛知、福岡が続く、これらの上位層で全体の約6割を占めた（図表7）。なお、同時期の沖縄県における国内入域観光客（2023年11月～2024年1月）についても東京や関西方面、福岡方面からの入域が多く、一般観光と同様に直行便が多い地域からの来場が多いことが推測される（図表8）。

図表7 県外（国内）からのスポーツ大会来場者の居住地別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表8 沖縄県における国内入域観光客の地域別の割合（2023年11月～2024年1月）



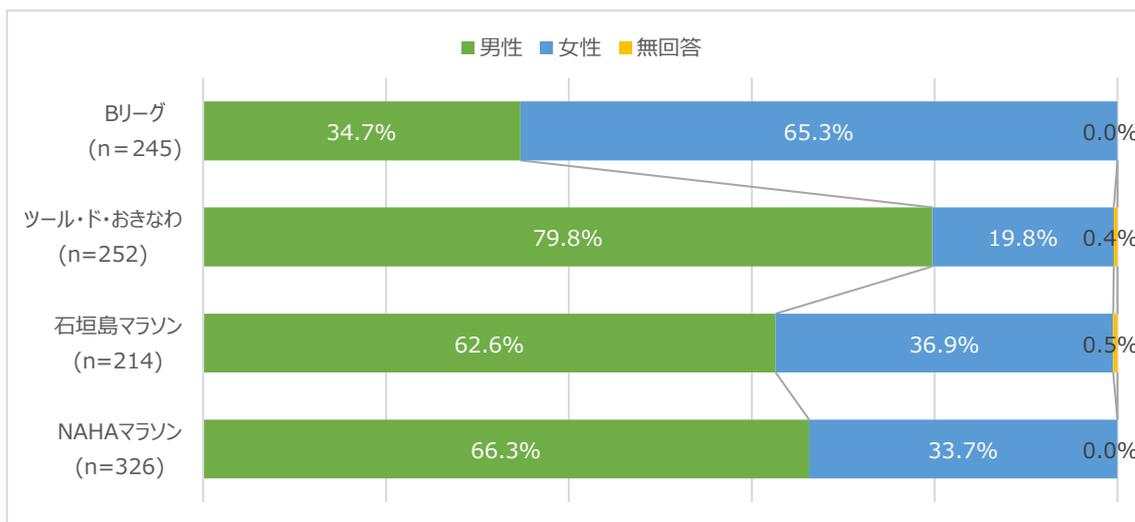
出所：沖縄県「入域観光客数概況」をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

② 性別および年代

性別については、観るスポーツは「女性」が全体の約7割を占め、するスポーツでは各スポーツともに「男性」が全体の約6～7割を占めた（図表9）。

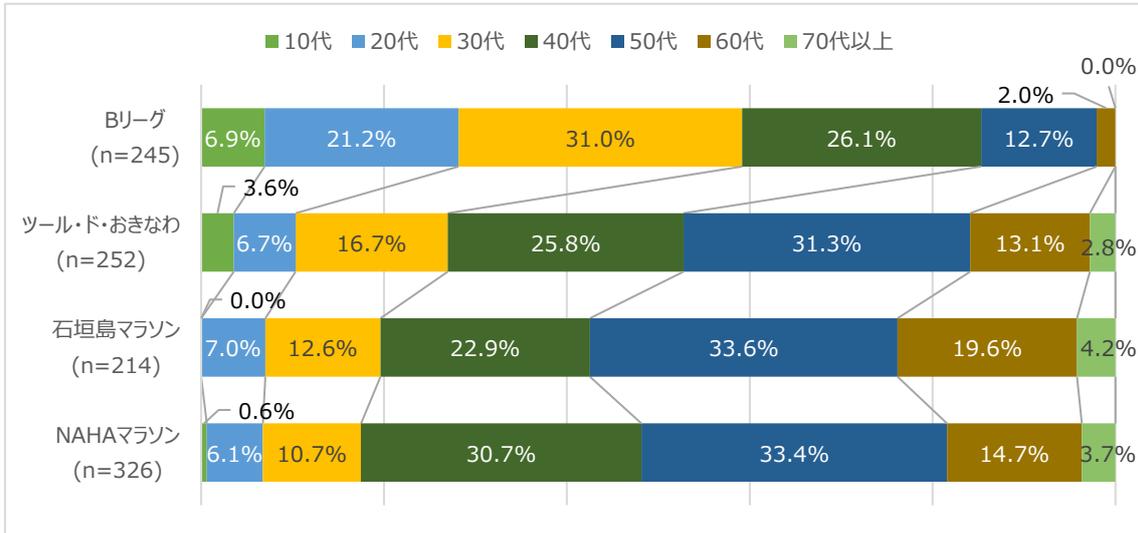
年代については、観るスポーツでは「30代」、するスポーツでは「50代」がそれぞれ最も高い割合となり、性別と同様、大会種類ごとの明確な違いが見られた（図表10）。なお、観るスポーツはするスポーツに比べ「20代」の割合が高く、若年層を中心とした幅広い年齢層の来場があることが推測される。

図表9 県外からのスポーツ大会来場者の性別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 10 県外からのスポーツ大会来場者の年代別の割合

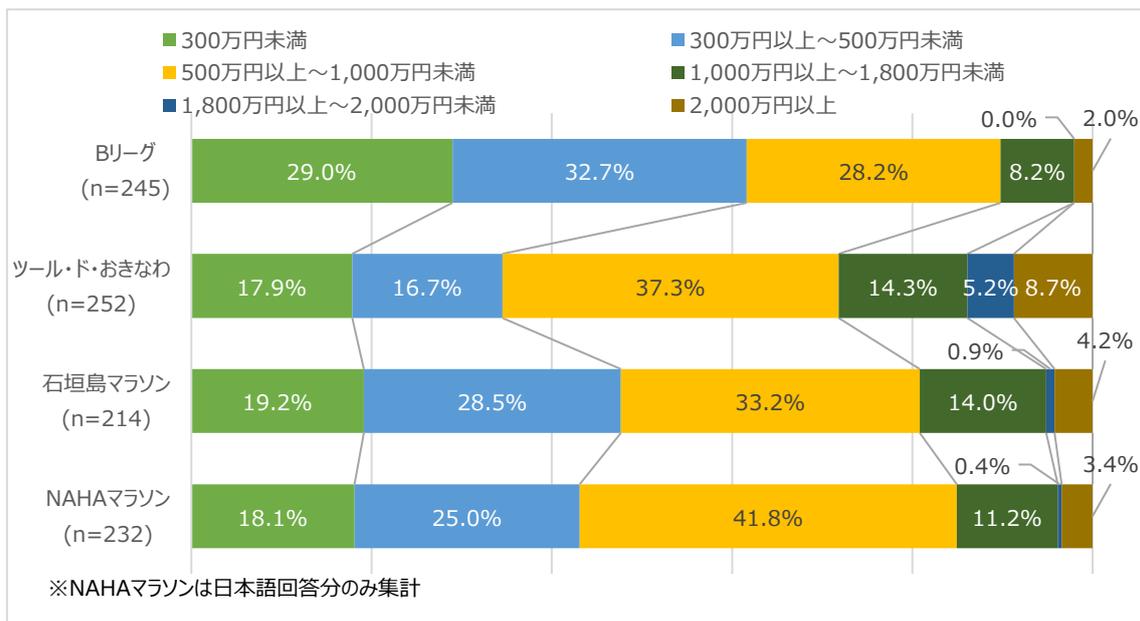


出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

③ 年収

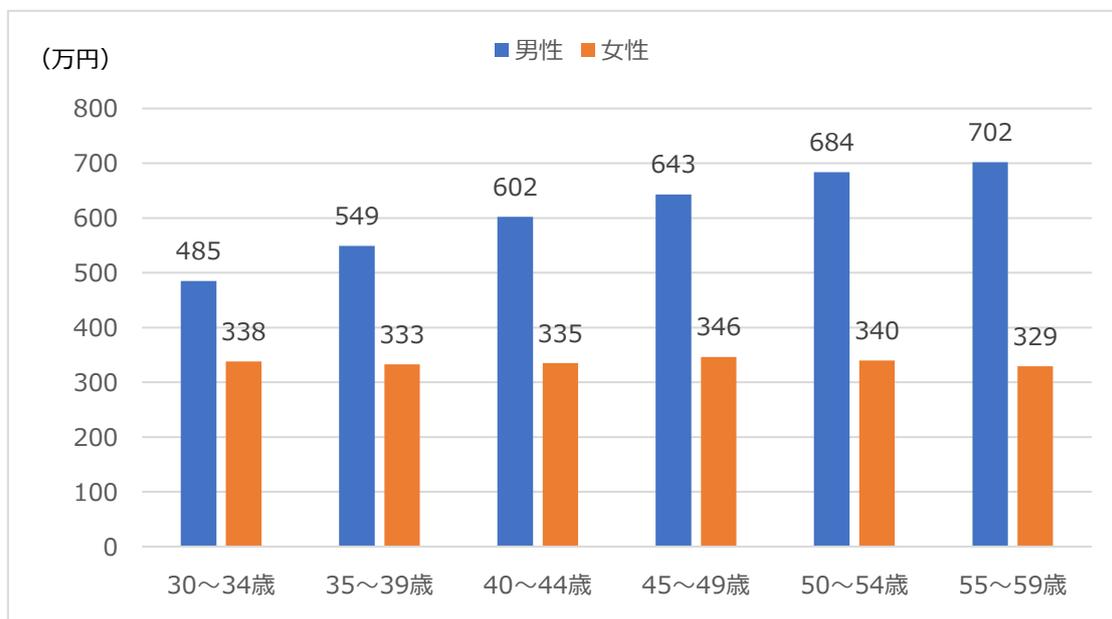
年収について、観るスポーツでは「300万円以上～500万円未満」、するスポーツでは「500万円以上～1,000万円未満」がそれぞれ最も高い割合となった（図表 11）。また、前述の年代の割合も加味し、国税庁の「民間給与実態統計調査」（2022年度）における年代別の平均年収と比較したところ、大きな差異はなく、各大会とも年代別の一般所得層の来場が多いことが推測される（図表 12）。

図表 11 県外からのスポーツ大会来場者の年収別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 12 年齢階層別の平均給与



出所：国税庁 令和4年分民間給与実態統計調査より抜粋し、りゅうぎん総合研究所にて作成

(2) 旅行内容による比較

次に、大会来場者の旅行内容について①同行者、②滞在日数、③宿泊施設の3つの観点から比較・分析した。

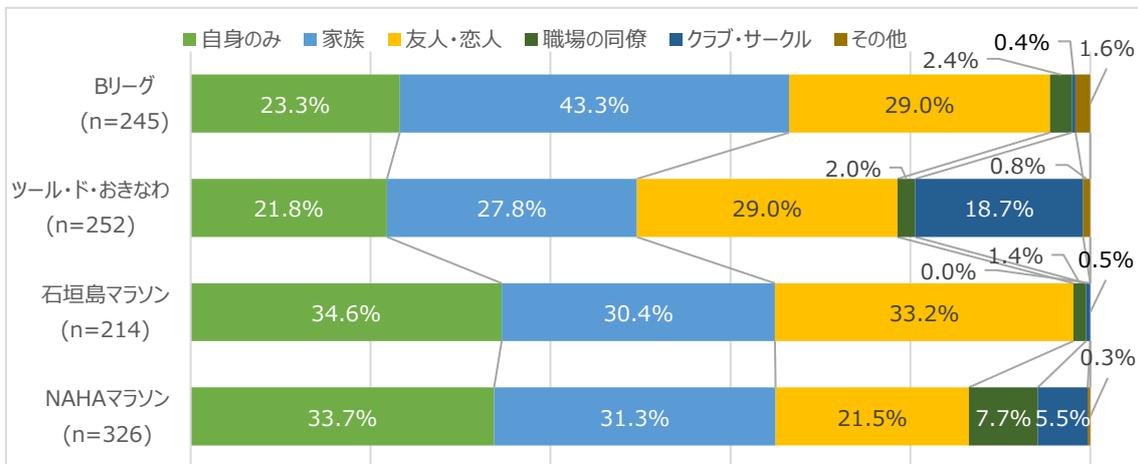
① 同行者

同行者について、観るスポーツでは「家族」が最も高い割合となった。するスポーツにおいて、ツール・ド・おきなわは「友人・恋人」が最も高い割合となった一方、NAHA マラソンおよび石垣島マラソンは「自身のみ」が最も高い割合となった（図表 13）。

旅行人数についてはツール・ド・おきなわを除き、各大会とも「1~2人」が最も高い割合となっており、身近な人との少人数での来場が多いことが推測される（図表 14）。

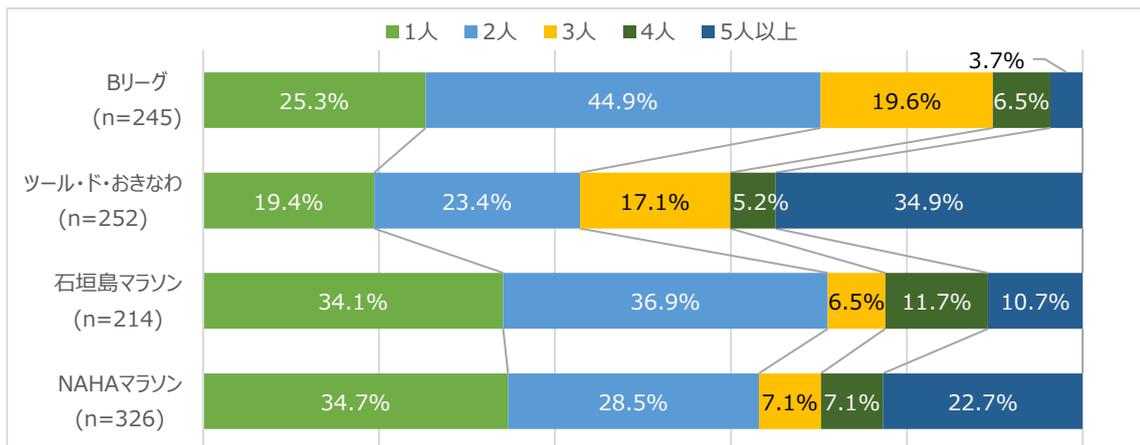
なお、ツール・ド・おきなわについては「5人以上」での来場割合が最も高く、「クラブ・サークル」での参加が他の大会に比べて高い割合となっていることから、団体での出場が多いことが推測される。

図表 13 県外からのスポーツ大会来場者の同行者別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 14 県外からのスポーツ大会来場者の旅行人数別の割合

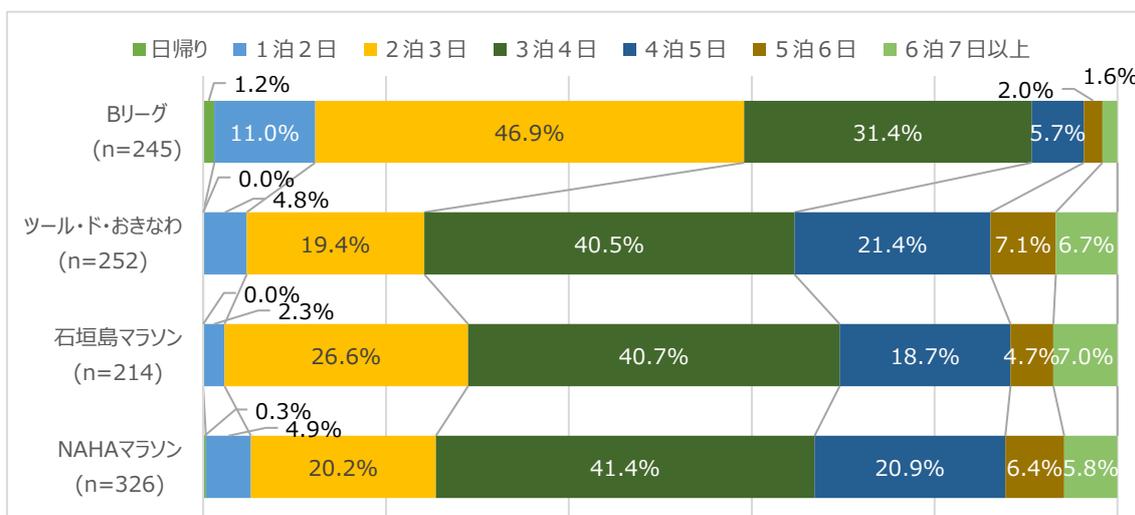


出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

② 滞在日数

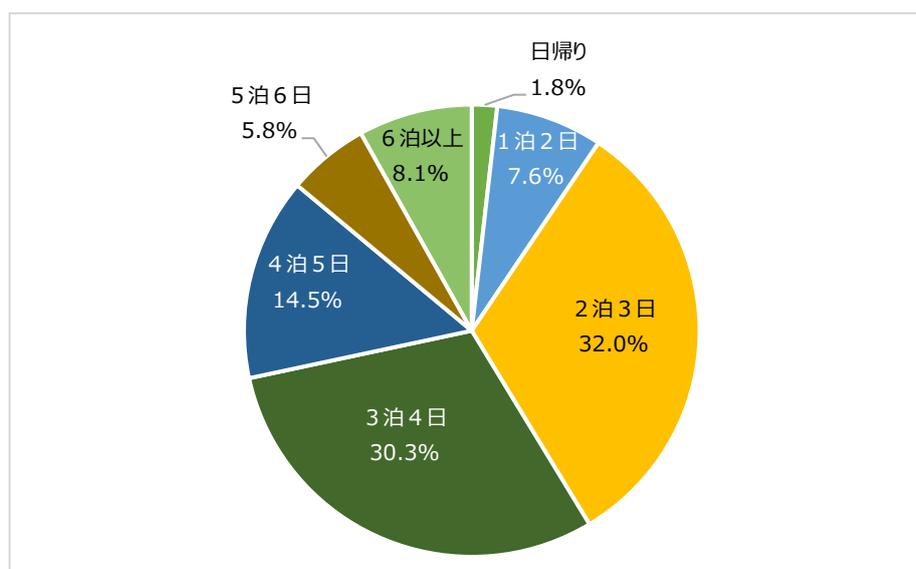
滞在日数について、観るスポーツでは「2泊3日」が最も高い割合となった一方、するスポーツでは「3泊4日」が最も高い割合となっており、するスポーツではエントリー日程や休息时间なども加味してゆとりを持った旅行日数を組んでいる来場者が多いことが推測される（図表 15）。なお、沖縄県の観光統計実態調査（2022 年度）における国内観光客の一人あたりの平均滞在日数は「2泊3日」および「3泊4日」がほぼ同じ割合であるが、するスポーツの滞在日数は「3泊4日」以上の割合が高くなっており、一般観光と比べて滞在日数は長くなる傾向がみられた（図表 16）。

図表 15 県外からのスポーツ大会来場者の滞在日数別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 16 沖縄県における国内入域観光客の平均滞在日数別の割合

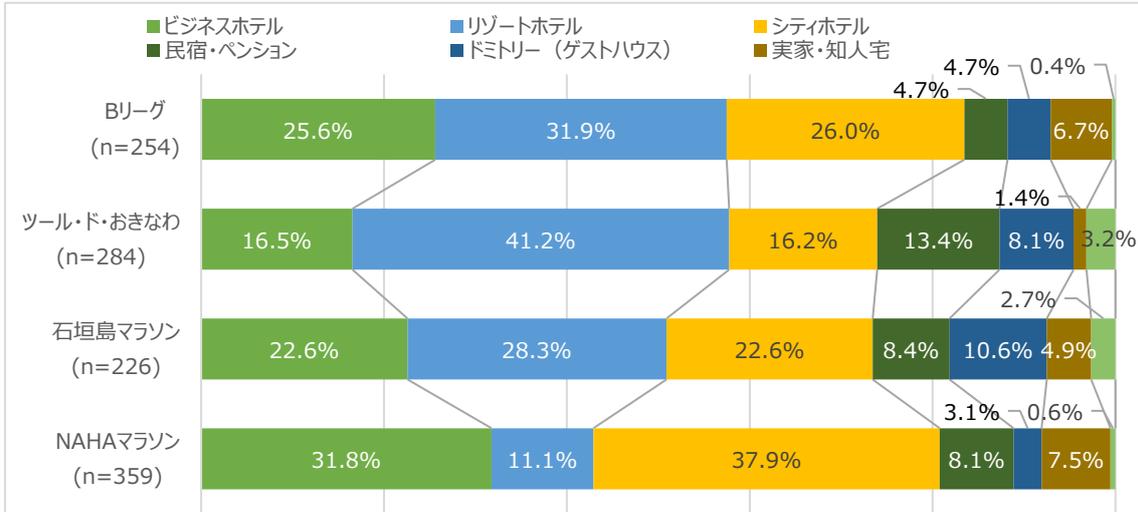


出所：沖縄県「観光統計実態調査（2022年度）」をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

③ 宿泊施設

宿泊施設について、観るスポーツでは「リゾートホテル」が最も高い割合となった（図表 17）。するスポーツにおいて、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソンでは「リゾートホテル」が最も高い割合となった一方、NAHA マラソンでは「シティホテル」が最も高い割合となっており、大会会場近くに宿泊する傾向があることが推測される。

図表 17 県外からのスポーツ大会来場者の宿泊施設別の割合（複数回答）



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

(3) 消費額による比較

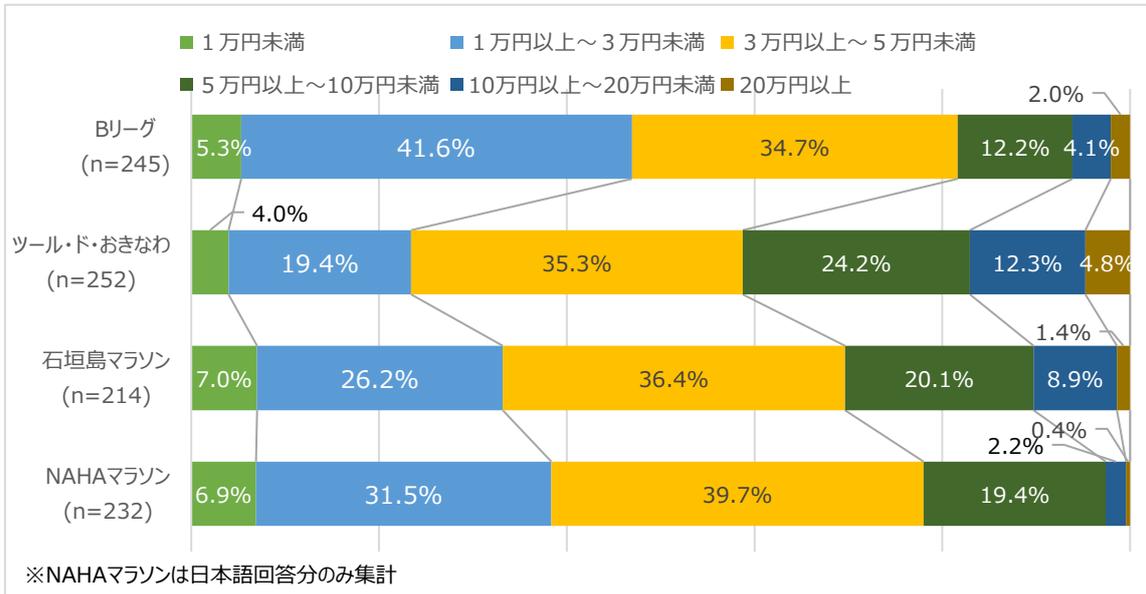
次に、大会来場者の消費額について①移動費（渡航代・県内移動費）、②宿泊費、③会場内消費の3つの観点から比較・分析した。

① 移動費（渡航代・県内移動費）

渡航代について、観るスポーツでは「1万円以上～3万円未満」が最も高い割合となった一方、するスポーツでは「3万円以上～5万円未満」が最も高い割合となっており、来場者の年代・年収などの属性と関連することが推測される（図表 18）。

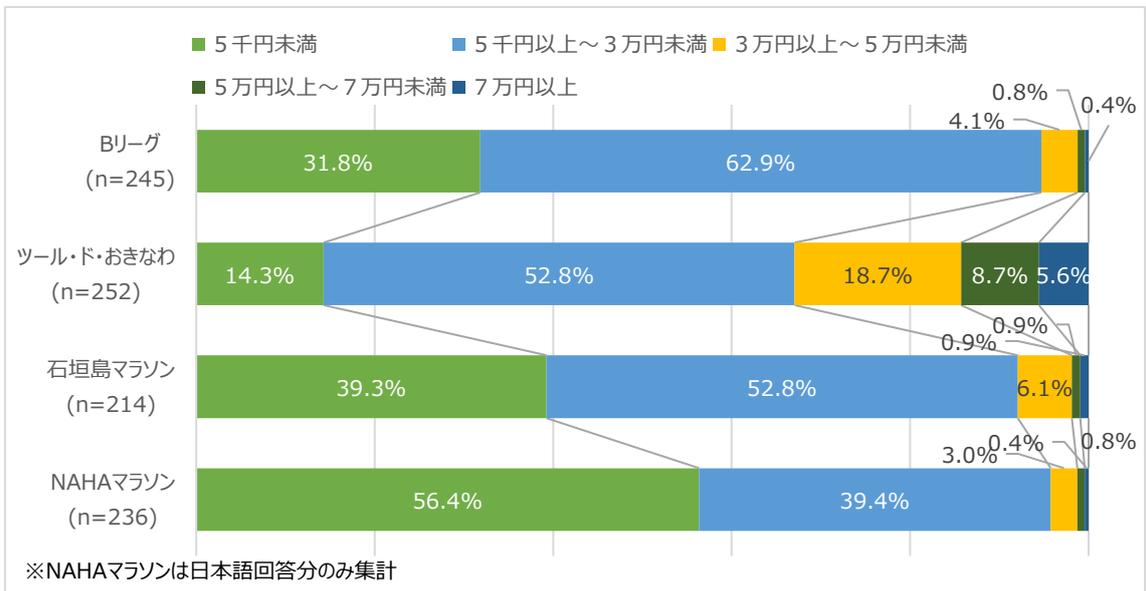
県内移動費について、観るスポーツでは「5千円以上～3万円未満」が最も高い割合となった。するスポーツにおいて、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソンでは「5千円以上～3万円未満」が最も高い割合となった一方、NAHAマラソンにおいては「5千円未満」が最も高い割合となったことから、空港から大会会場までの距離に比例することが推測される（図表 19）。

図表 18 県外からのスポーツ大会来場者の渡航代別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 19 県外からのスポーツ大会来場者の県内移動費別の割合

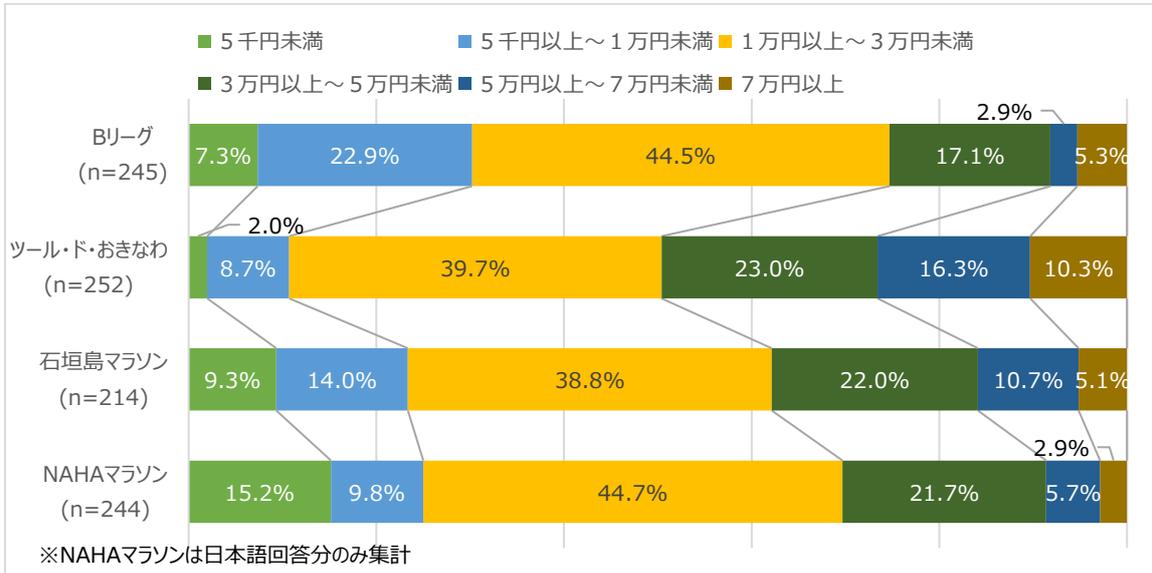


出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

② 宿泊費

宿泊費については、各大会とも「1万円～3万円未満」が最も高い割合となった(図表 20)。なお、沖縄県の観光統計実態調査(2022年度)における観光客一人あたりの県内宿泊費は「38,774円」であり、大会来場者の宿泊費は一般観光における宿泊費と比較して低くなっていることがわかった。前述の平均滞在日数も加味すると、スポーツ大会目的の宿泊のため、宿泊プランなどを選定し、宿泊代金をおさえている傾向があることが推測される。

図表 20 県外からのスポーツ大会来場者の宿泊費別の割合

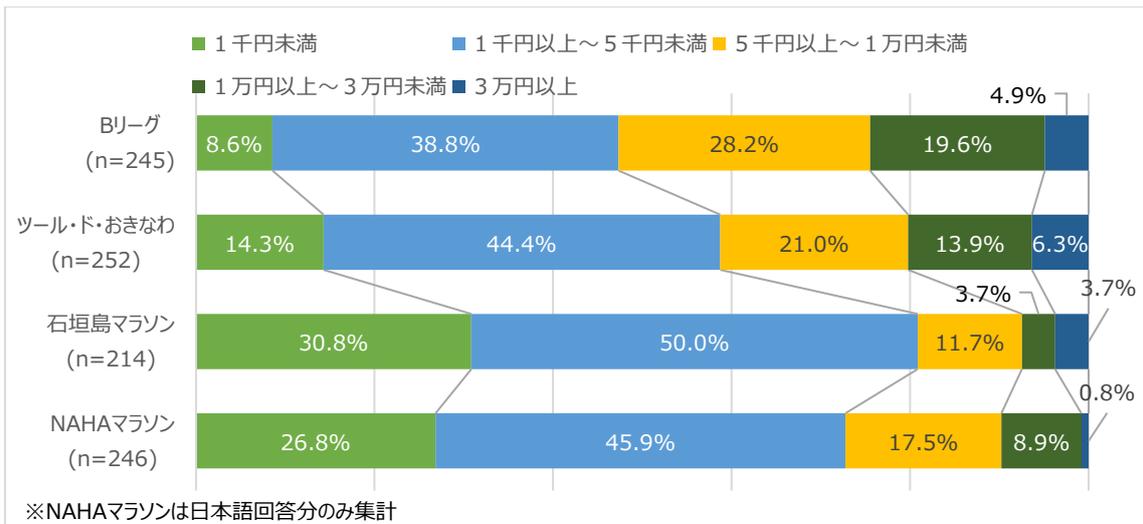


出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

③ 会場内消費

大会会場内の消費については、各大会とも「1千円以上～5千円未満」が最も高い割合となった（図表 21）。なお、観るスポーツについては「5千円以上～1万円未満」の割合がするスポーツと比べて高くなっており、幅広い価格帯のグッズ展開などが影響していると考えられる。

図表 21 県外からのスポーツ大会来場者の会場内消費別の割合



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

(4) アンケート調査結果のまとめ

前項のアンケート調査の分析結果を大会種別（観るスポーツ、するスポーツ）毎に整理し、また一般観光との比較についてまとめた。

① 観るスポーツ

属性について、「30代の女性」の割合が最も高く、若年層を中心とした幅広い層の来場があることがわかった。また、年代別の一般所得層の来場者が多いことが推測される。

旅行内容について、同行者は家族との少人数（1～2人）での来場が多いことが推測される。また、宿泊施設はその種類から会場近くとする傾向があることがうかがえ、滞在日数は「2泊3日」の割合が最も高くなった。

消費額について、移動費（渡航代、県内移動費）は年代・年収などの属性や空港からの距離に関連することが推測される。また、会場内消費については、するスポーツと比べ、消費額が高く、幅広い価格帯のグッズ展開などが影響していると考えられる。

② するスポーツ

属性について、「50代の男性」の割合が最も高く、中年層からの需要が高いことが推測される。また、観るスポーツと同様、年代別の一般所得層の来場者が多いことが推測される。

旅行内容について、同行者はツール・ド・おきなわを除き、自身のみや友人・恋人との少人数（1～2人）での来場が多いことが推測される。また、宿泊施設は観るスポーツと同様、会場近くとする傾向があるも、滞在日数は「3泊4日」の割合が最も高く、エントリー日程や休息时间なども加味してゆとりを持った旅行日数を組んでいる来場者が多いことが推測される。

消費額について、移動費（渡航代、県内移動費）は観るスポーツと同様、年代・年収などの属性や空港からの距離に関連することが推測される。

③ 一般観光との比較

居住地の内訳について、各大会とも東京などの関東圏や大阪、愛知、福岡にて全体の6割以上を占めており、同時期の一般観光と同様に直行便が多い地域からの来場が多いことが推測される。

滞在日数について、観るスポーツについては一般観光の平均滞在日数と大きな差異はみられなかった一方、するスポーツにおいては一般観光の平均滞在日数より長くなる傾向がみられた。

宿泊費については一般観光より低く、スポーツ大会目的の宿泊のため、宿泊代金をおさえたい傾向があることが推測される。

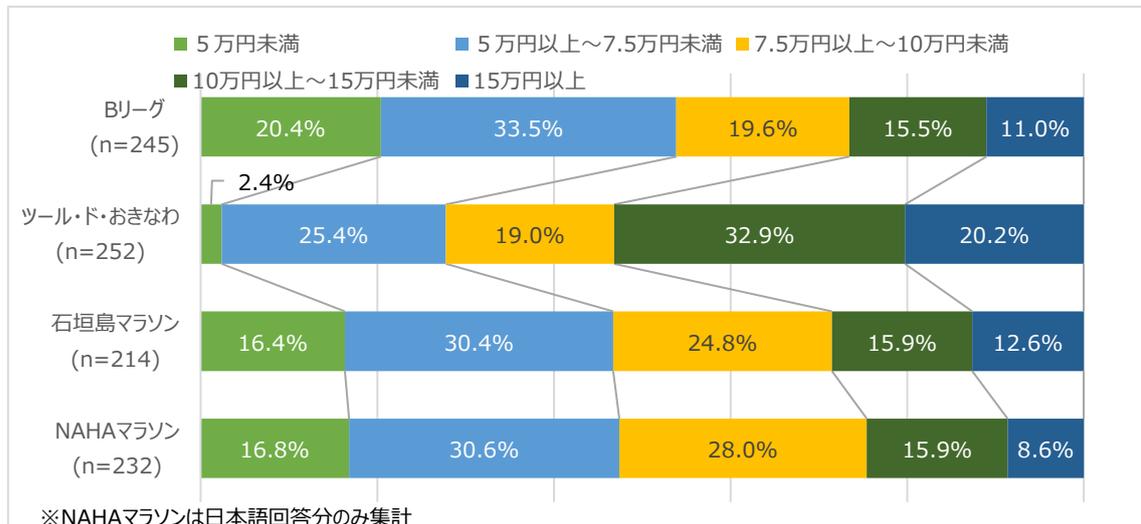
4. 直接支出額の試算

(1) 直接支出額の試算

① スポーツ大会別の直接支出額

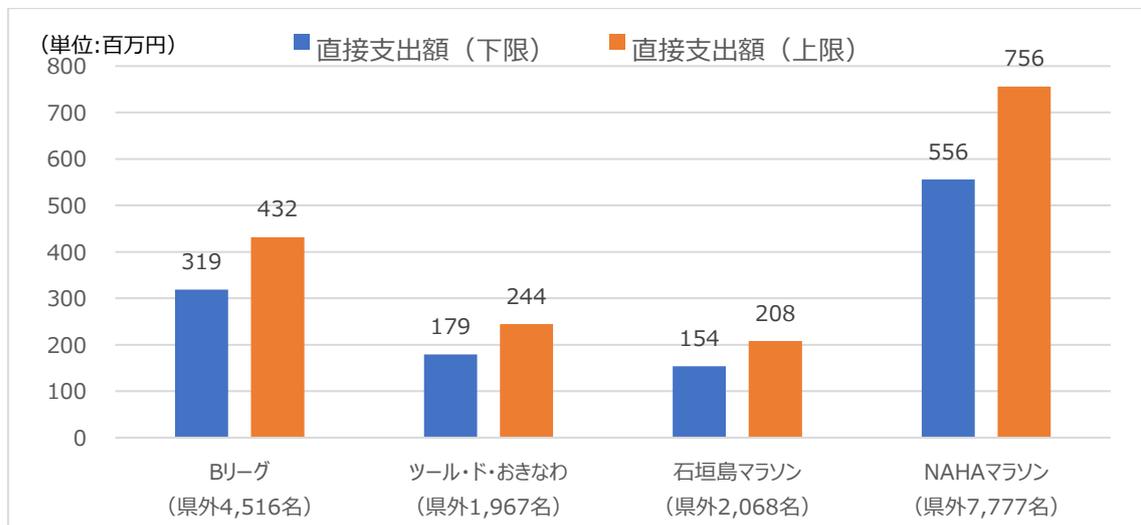
前項のアンケートの「旅行の総費用（渡航代含む）」の回答結果（図表 22）および各大会の県外からの参加者数をもとに直接支出額を試算した。その結果、Bリーグでは約 3.2 億円～4.3 億円、ツール・ド・おきなわでは約 1.8 億円～2.4 億円、石垣島マラソンでは約 1.5 億円～2.1 億円、NAHA マラソンでは約 5.6 億円～7.6 億円となり、大会別では NAHA マラソンが最も直接支出額が高くなること推計された（図表 23）。

図表 22 県外からのスポーツ大会来場者の旅行の総費用別の割合（渡航代含む）



出所：OCVB「スポーツ大会参加に係る実態調査」の集計結果をもとに、りゅうぎん総合研究所にて作成

図表 23 スポーツ大会別の直接支出額（渡航代含む）



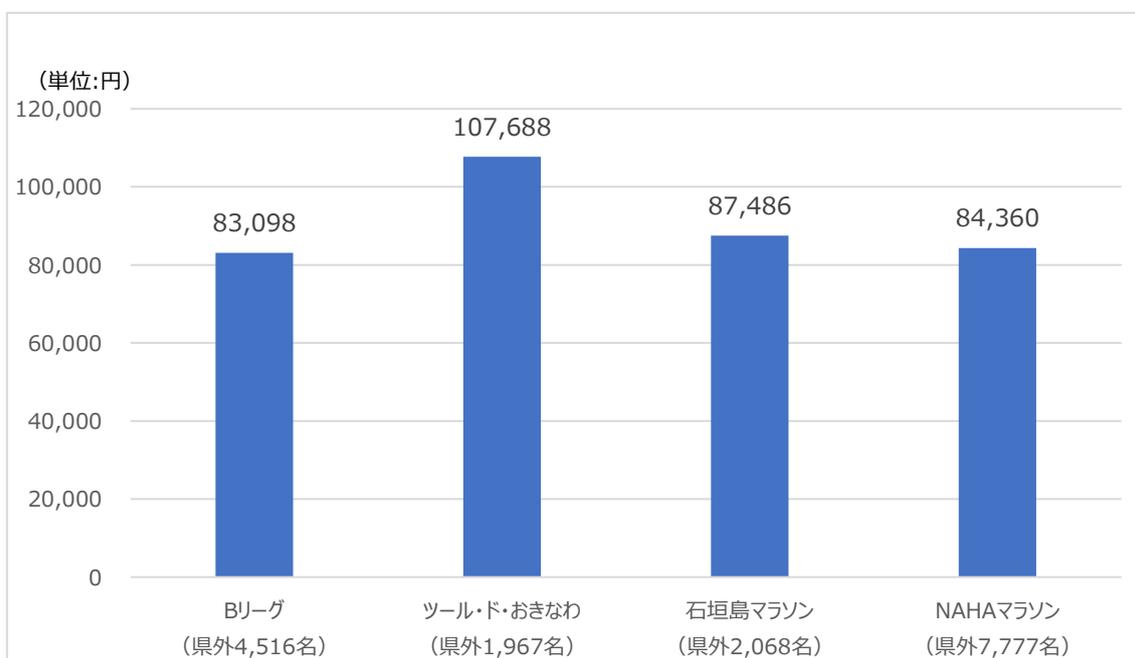
出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

② 一人あたりの平均直接支出額

続いて、直接支出額を県外参加者数で除した一人あたりの平均直接支出額を算出した。その結果、大会別ではツール・ド・おきなわが約11万円と、最も高くなることが推計された。

また、沖縄県の観光統計実態調査（2022年度）における観光客全体消費単価は「103,706円」となっており、これと比較して、一人あたりの平均直接支出額はツール・ド・おきなわを除き低くなった（図表24）。なお、観光全体消費単価には渡航代は含まれていないことを考慮すると、各大会とも一人あたりの平均直接支出額は一般観光と比較して低くなることが推測される。

図表24 一人当たりの平均直接支出額（渡航代含む）および観光客全体消費単価



出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

(2) 直接支出額への貢献度が高い属性

① 直接支出額が高い費用帯

前項で試算した直接支出額について、「旅行の総費用（渡航代含む）」の回答における費用帯別に観ると、Bリーグでは「5万円以上～7.5万円未満」、ツール・ド・おきなわでは「10万円以上～15万円未満」、石垣島マラソンおよびNAHAマラソンでは「7.5万円以上～10万円未満」と回答した費用帯が最も直接支出額が高くなることが推計された（図表25）。なおツール・ド・おきなわについては、石垣島マラソンと比べて県外からの参加者数は少ないが、直接支出額の合計は高くなっており、上記の「10万円以上～15万円未満」を含め高い費用帯での参加割合が多いことに起因すると推測される。

図表 25 費用帯別の直接支出額（渡航代含む）

（単位：円）

| 大会名 | | 5万円未満 | 5万円以上 ～7.5万円未満 | 7.5万円以上 ～10万円未満 | 10万円以上 ～15万円未満 | 15万円以上 | 計 |
|--------------------------|-----------|------------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------|--------------------|
| Bリーグ (県外4,516名) | 直接支出額（下限） | 40,463,360 | 74,739,800 | 64,014,300 | 67,740,000 | 71,804,400 | 318,761,860 |
| | 直接支出額（上限） | 49,567,616 | 110,614,904 | 84,498,876 | 100,932,600 | 86,165,280 | 431,779,276 |
| ツール・ド・おきなわ (県外1,967名) | 直接支出額（下限） | 2,203,040 | 24,784,200 | 27,882,225 | 65,107,700 | 59,305,050 | 179,282,215 |
| | 直接支出額（上限） | 2,698,724 | 36,680,616 | 36,804,537 | 97,010,473 | 71,166,060 | 244,360,410 |
| 石垣島マラソン (県外2,068名) | 直接支出額（下限） | 14,145,120 | 32,157,400 | 37,068,900 | 32,674,400 | 37,844,400 | 153,890,220 |
| | 直接支出額（上限） | 17,327,772 | 47,592,952 | 48,930,948 | 48,684,856 | 45,413,280 | 207,949,808 |
| NAHAマラソン (県外7,777名) | 直接支出額（下限） | 55,683,320 | 117,432,700 | 161,567,175 | 122,098,900 | 99,156,750 | 555,938,845 |
| | 直接支出額（上限） | 68,212,067 | 173,800,396 | 213,268,671 | 181,927,361 | 118,988,100 | 756,196,595 |

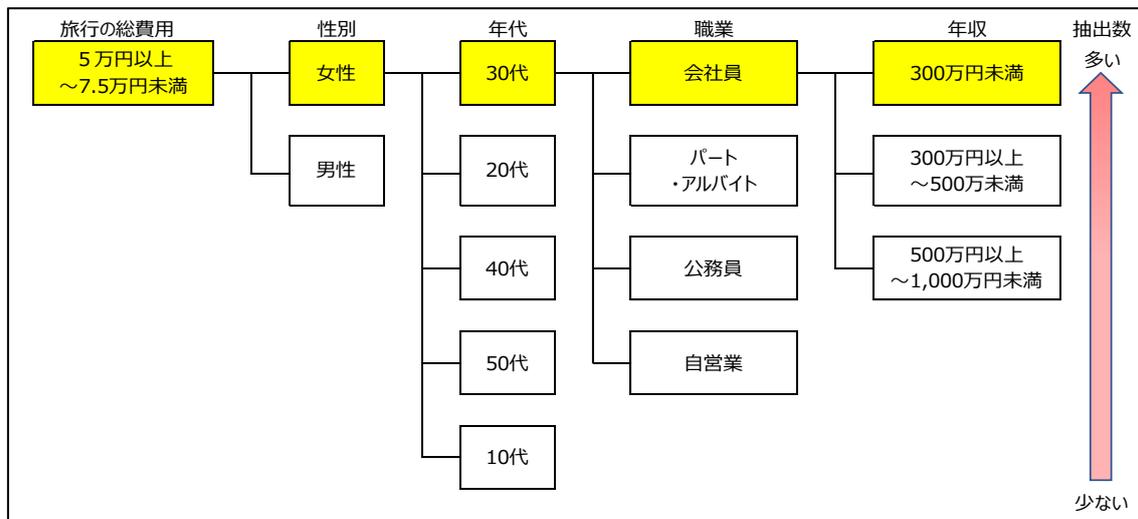
※「5万円未満」の最低支出額を40,000円、「15万円以上」の最大支出額を180,000円とし、試算した。

出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

② 直接支出額への貢献度が高い属性

続いて、各大会の直接支出額への貢献度が高い属性について、前述の直接支出額が高い費用帯を起点として、ツリー分析²により抽出した（図表 26）。その結果、観るスポーツにおいては「30代の女性」、するスポーツについては「50代の男性」が最も多く抽出され、前項のアンケート結果における来場者数が最多の属性と一致し、それぞれ貢献度が高いことが推測される（図表 27）。

図表 26 ツリー分析手法（例：Bリーグ）



出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

² ツリー分析は株式会社琉球銀行営業統括部様の協力のもと共同で分析した。

図表 27 大会別の最も直接支出額が高い属性

| 大会名 | 旅行の総費用 | 性別 | 年代 | 職業 | 年収 |
|-----------------------|------------------------|------------|-------------|-------------|----------------------------|
| Bリーグ (n=245) | 5万円以上～7.5万円未満 (82) | 女性 (55) | 30代 (19) | 会社員 (14) | 300万円未満 (5) |
| ツール・ド・おきなわ (n=252) | 10万円以上～15万円未満 (83) | 男性 (62) | 50代 (22) | 会社員 (18) | 500万円以上～1,000万円未満 (7) |
| 石垣島マラソン (n=214) | 7.5万円以上～10万円未満 (53) | 男性 (38) | 50代 (18) | 会社員 (12) | 1,000万円以上～1,800万円未満 (9) |
| NAHAMマラソン (n=232) | 7.5万円以上～10万円未満 (65) | 男性 (53) | 50代 (16) | 会社員 (16) | 500万円以上～1,000万円未満 (9) |

※ () 内は抽出数

出所：りゅうぎん総合研究所にて作成

5. スポーツツーリズムの課題の整理

これまでのアンケートの分析結果や直接支出額の試算を踏まえ、スポーツツーリズムの誘客促進に向けた課題について整理した。

(1) 来場者数の増加および質の向上

人口減少が進む中で今後も継続的にスポーツイベントを行うためには、一定規模の来場者数の維持が求められる。アンケートの結果から、観るスポーツではBリーグの人気もあり若年層の来場が多い一方、するスポーツでは中高年の割合が多いことがわかった。このことから、ターゲット層にリーチする戦略的なプロモーションのほか、満足度向上に繋がる情報発信やコンテンツの造成等を行いリピーターの確保に向けた方策の検討が必要である。

(2) 消費額の増加

スポーツイベントは一度に数千人から数万人の参加があり、各大会の直接支出額は数億円にのぼることがわかった。一方で、各大会への県外からの参加者の一人当たりの平均直接支出額と沖縄県の観光全体消費単価を比較すると、スポーツツーリズム消費単価は観光全体消費単価より低くなっていることが推測される結果となった。また、各大会ともに参加者の多くは大会会場付近に宿泊する傾向があるほか、参加者の約7割は大会前後で一般観光を行っていることがわかった。以上のことから、消費単価向上に向けた取り組みとして、会場周辺の飲食・観光情報の発信の強化だけでなく、大会前後に楽しめる観光ツアーの造成および大会関連イベントの開催など、沖縄全体を周遊させるコンテンツの提供や長期的な滞在を促す仕組みづくりを行い、滞在日数の延伸を促す方策の検討が必要である。

(3) スポーツ関連施設の整備・充実化

昨今、全国各地でアリーナ・スタジアム建設が進んでおり、沖縄県においても 2021 年に沖縄アリーナが開業された。2023 年 8 月には FIBA バスケットボールワールドカップ 2023 が沖縄アリーナで開催され、当大会を通しての県内経済効果は約 107 億円に上った。また、沖縄県は 2031 年度までに J リーグ規格スタジアムを開業する計画を発表し、スポーツイベントを通じた地域経済への効果が期待される。以上のことから、アリーナ・スタジアムを活用したスポーツイベントはアウェイツーリズムを推進し、地域経済の中核となることが期待されることから、地域・観光拠点となるスポーツ関連施設の整備・充実化を図り、国際競技大会の開催など各種スポーツコンベンションへの対応に係る検討が必要である。

6. 最後に

今回のアンケート調査を通して、スポーツ大会の来場者について大会別・分類別にその特徴を探ることができた。今後もターゲット層の明確化とスポーツコンテンツの需要動向をリアルタイムで把握し、上記の課題に対する取組みの効果を検証するため定期的なアンケート調査の実施が必要である。また、必要に応じてアンケート対象や質問内容についても検討が必要であろう。

今回の調査を起点に、沖縄県のスポーツツーリズムの振興に資する効果的な取組みの実施を期待したい。

(以上)

7. 添付資料

スポーツ大会参加に係る実態調査

(1) 調査概要

① 調査対象

下記4つのスポーツ大会における沖縄県外（国内・海外）からの来場者

| 大会名 | 調査期間 | 回答数 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----|
| Bリーグオールスター2024 (以降、Bリーグ) | 2024年1月13日(土) ～2024年1月14日(日) | 245 |
| 第35回ツール・ド・おきなわ (以降、ツール・ド・おきなわ) | 2023年11月10日(金) ～2023年11月11日(土) | 252 |
| 石垣島マラソン2024 (以降、石垣島マラソン) | 2024年1月20日(土) | 214 |
| NAHAマラソン第37回大会 (以降、NAHAマラソン) | 2023年12月2日(土) ～2023年12月3日(日) | 326 |

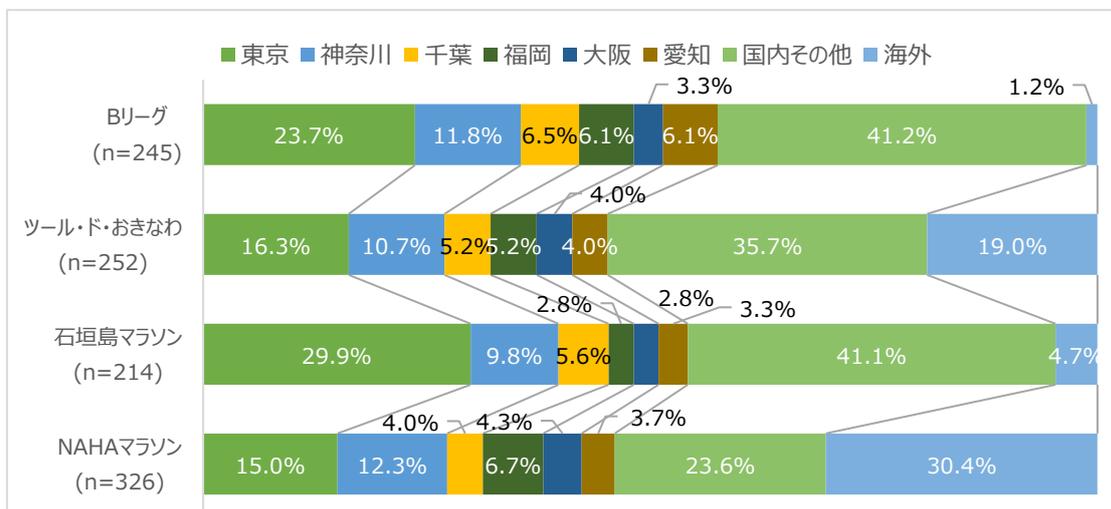
② 調査方法

大会会場にて任意の来場者にQRコードを配布し、WEB形式の選択式のアンケート調査を実施。

(2) 質問および回答内容の集計

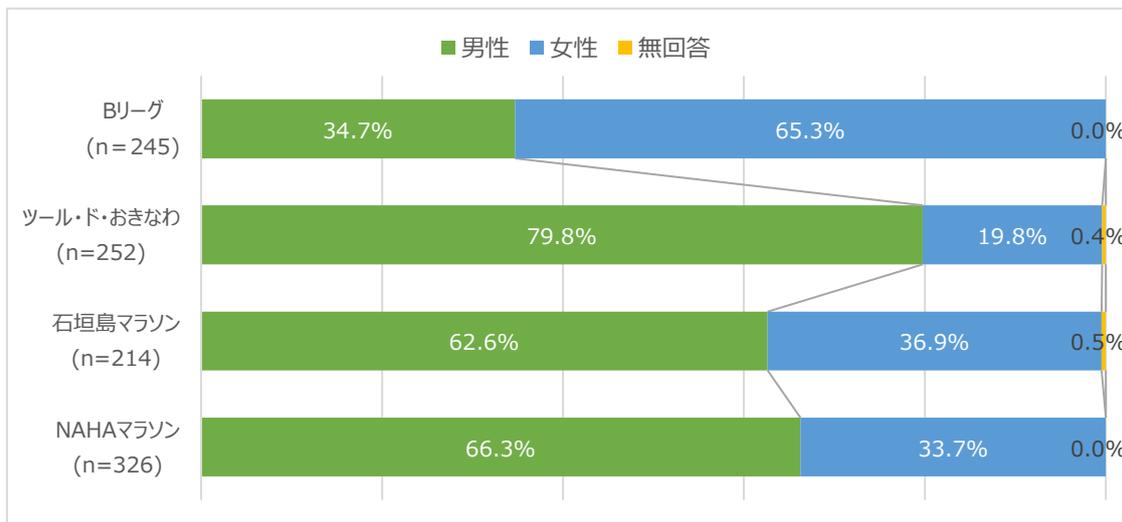
① 現在のお住まいを教えてください。

・各大会とも県外（国内）からの来場者が約7割以上を占め、国内では「東京」が最も割合が高くなった。



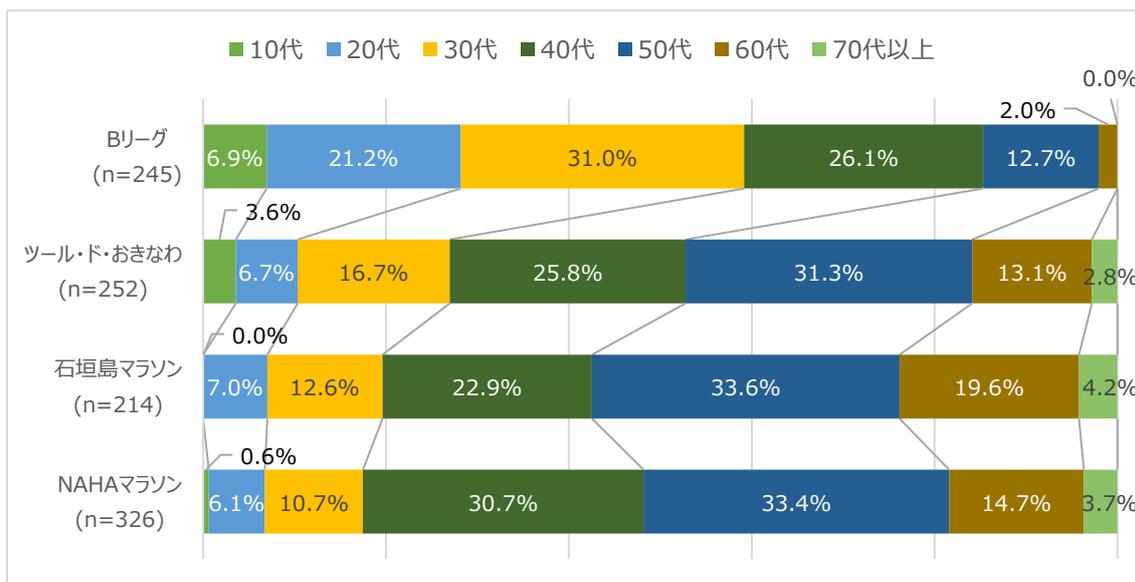
② 性別を教えてください。

・Bリーグでは「女性」が約7割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHAマラソンでは「男性」約6～7割となった。



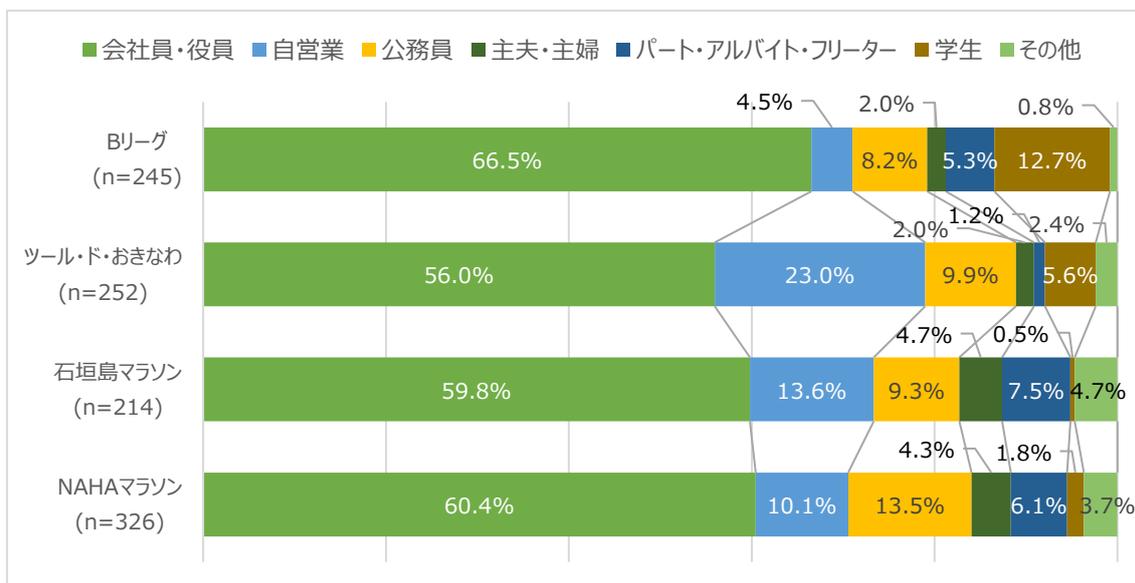
③ 年代を教えてください。

・Bリーグは「30代」が約3割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHAマラソンは「50代」が約3割となった。



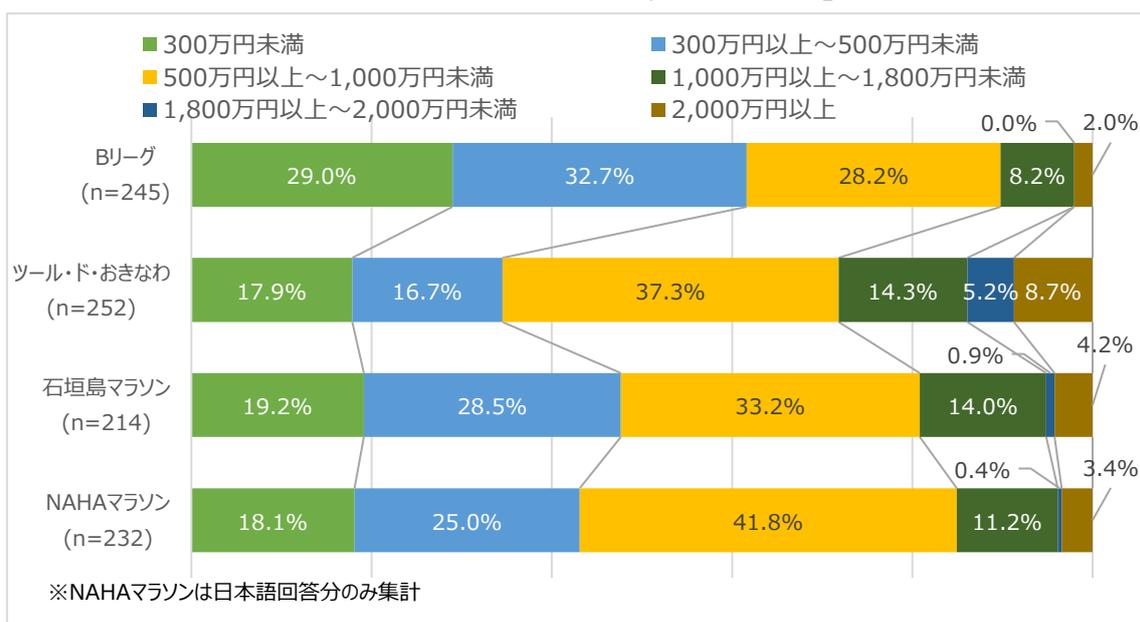
④ ご職業を教えてください。

・各大会ともに「会社員・会社役員」が約6割となった。



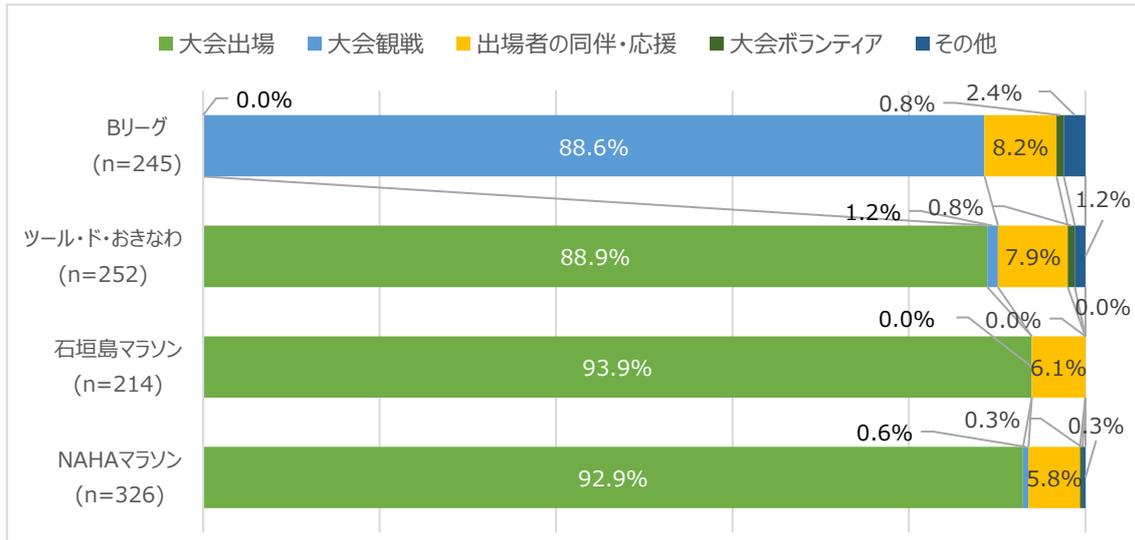
⑤ 年収を教えてください。

・Bリーグは「300万円以上～500万円未満」が約3割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHAマラソンでは「500万円以上～1,000万円未満」が約3～4割となった。



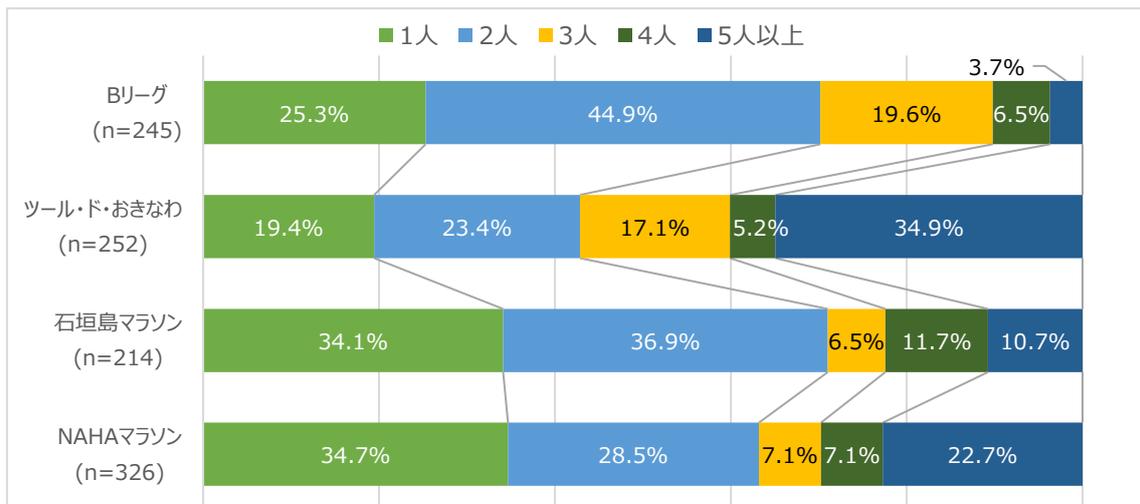
⑥ 今回の旅の目的を教えてください。

・Bリーグは「大会観戦」が約9割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHAマラソンは「大会出場」が約9割となった。



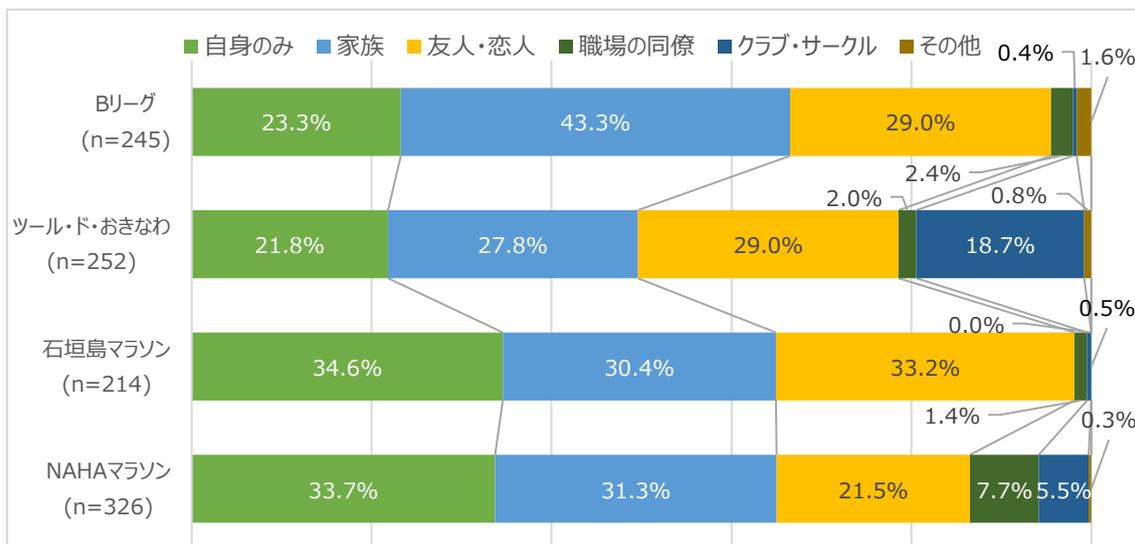
⑦ 今回の旅行の人数を教えてください。(本人含む)

・Bリーグおよび石垣島マラソンは「2人」が約4割、ツール・ド・おきなわは「5人以上」が約3割、NAHAマラソンは「1人」が約3割となった。



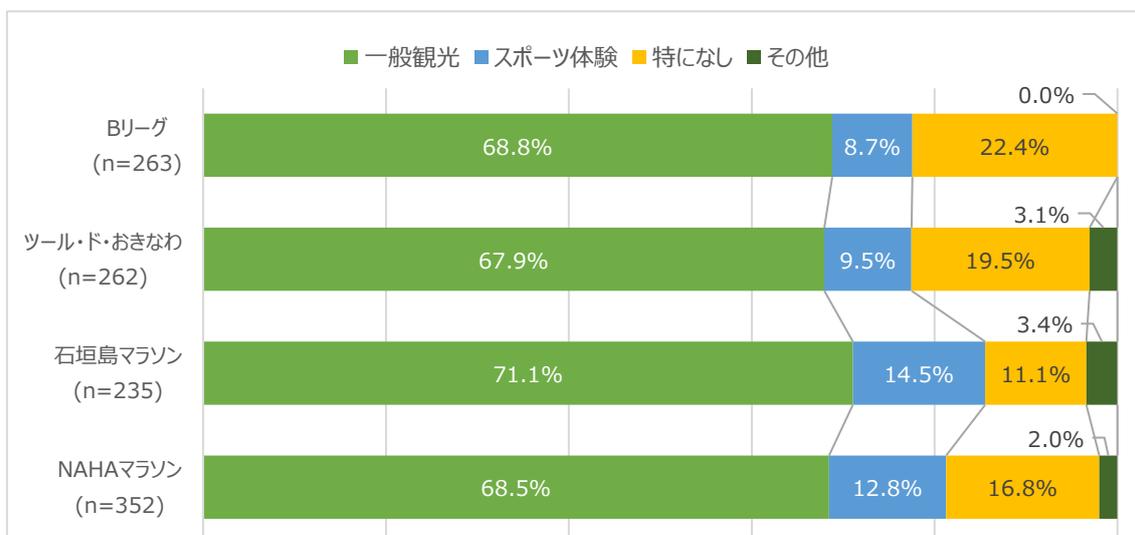
⑧ どなたと一緒に来ましたか。

・Bリーグは「家族」が約4割、ツール・ド・おきなわは「友人・恋人」が約3割、石垣島マラソンおよびNAHAマラソンは「自身のみ」が約3割となった。



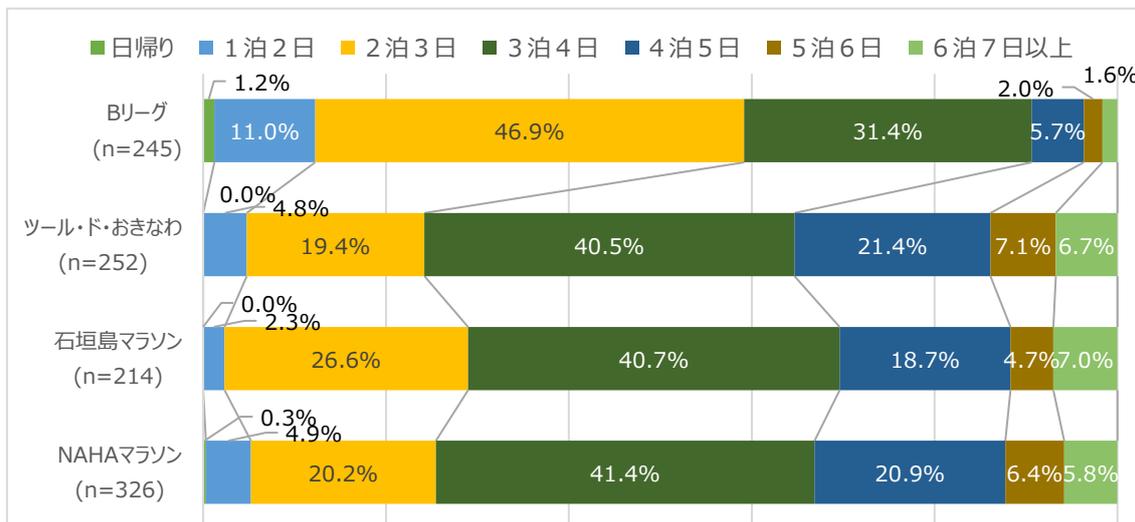
⑨ 大会（試合観戦）以外はどのように過ごしますか、または過ごされましたか。（複数回答可）

・各大会とも「一般観光」が約7割となった。



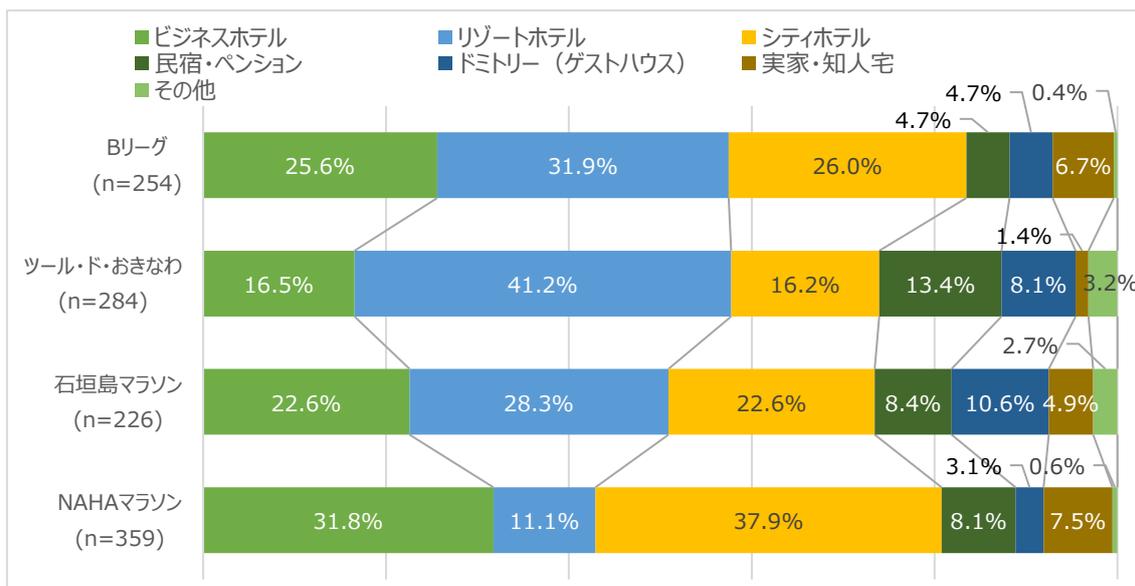
⑩ 滞在日数を教えてください。

・Bリーグは「2泊3日」が約5割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHAマラソンは「3泊4日」が約4割となった。



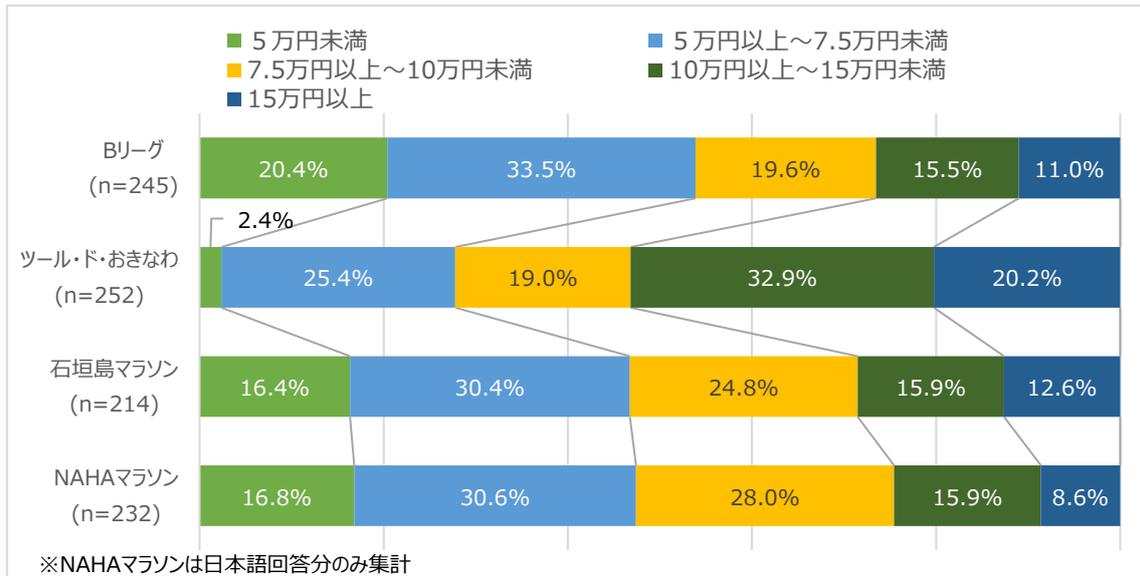
⑪ 今回利用される宿泊施設について教えてください。(複数回答可)

・Bリーグおよびツール・ド・おきなわ、石垣島マラソンは「リゾートホテル」が約3～4割、NAHAマラソンは「シティホテル」が約4割となった。



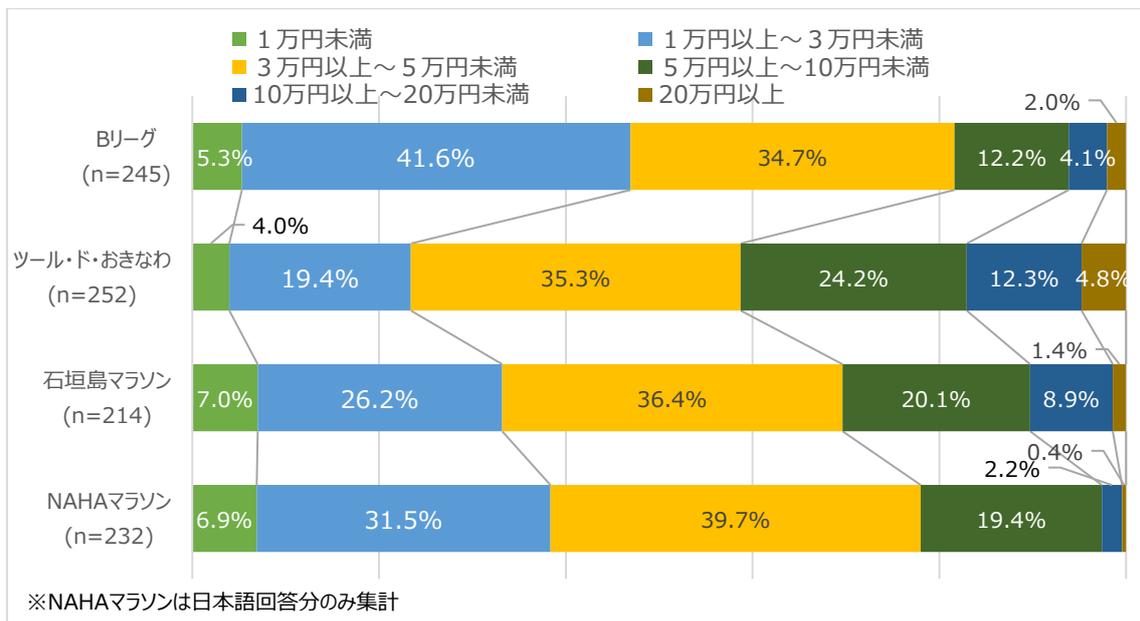
⑫ 今回の旅の総費用（大会参加費用や沖縄までの交通費含む）を教えてください。（予定含む）

・Bリーグおよび石垣島マラソン、NAHA マラソンは「5万円以上～7.5万円未満」が約3割、ツール・ド・おきなわは「10万円以上～15万円未満」が約3割となった。



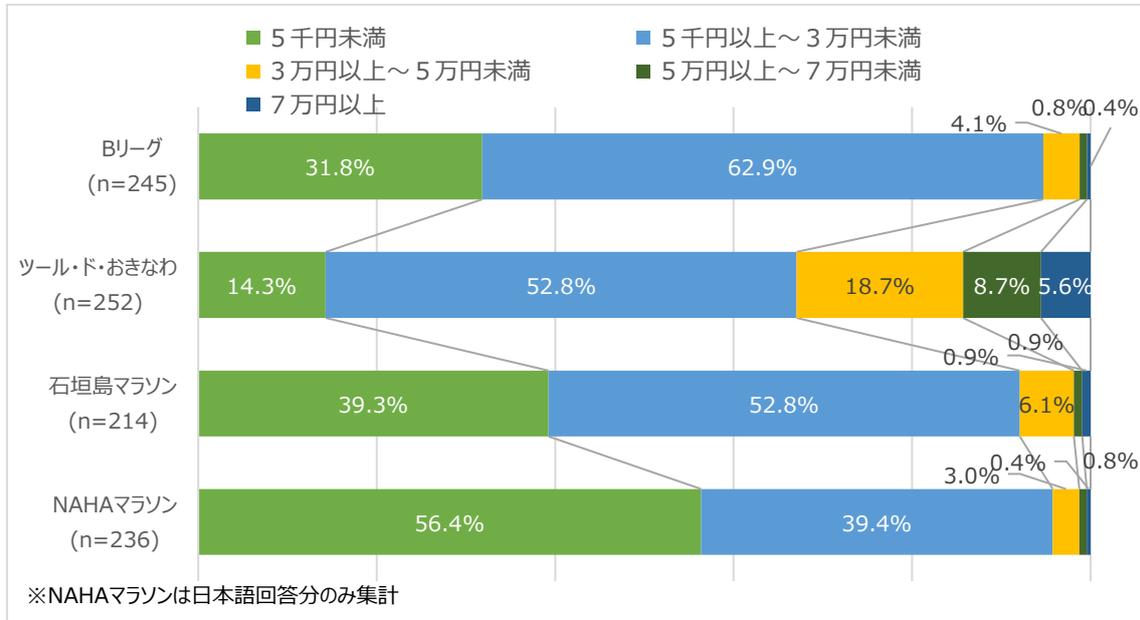
⑬ 沖縄までの渡航代（航空券・船など）を教えてください。

Bリーグは「1万円以上～3万円未満」が約4割、ツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソン、NAHA マラソンは「3万円以上～5万円未満」が約4割となった。



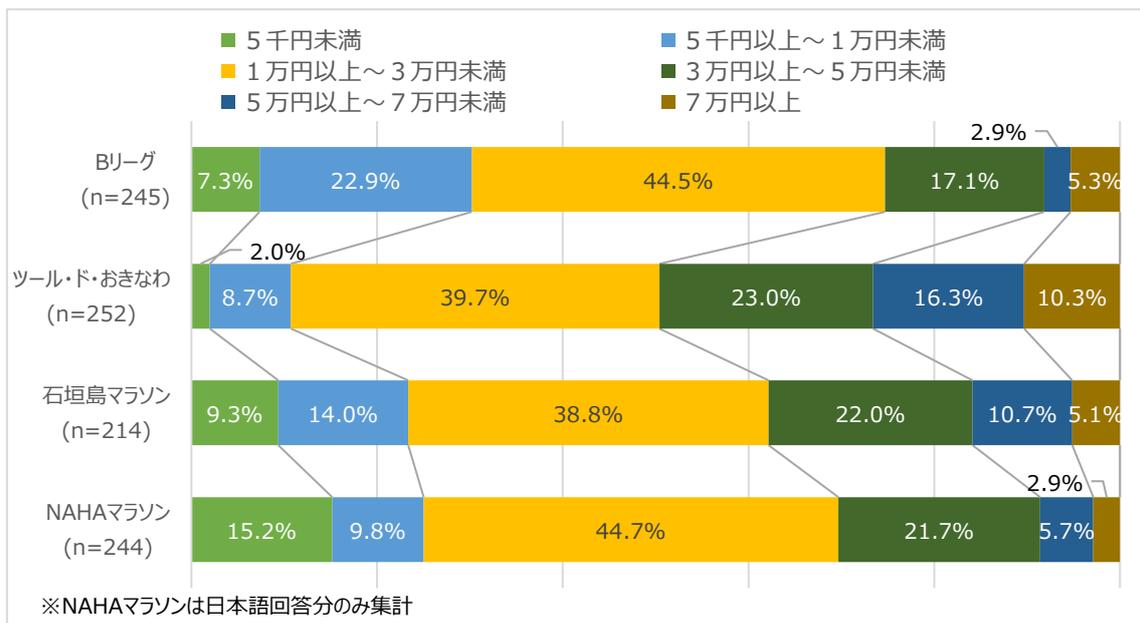
⑭ 沖縄県内の移動費（レンタカー・バス・タクシーなど）を教えてください。

・Bリーグおよびツール・ド・おきなわおよび石垣島マラソンは「5千円以上～3万円未満」が約5～6割、NAHAマラソンは「5千円未満」が約6割となった。



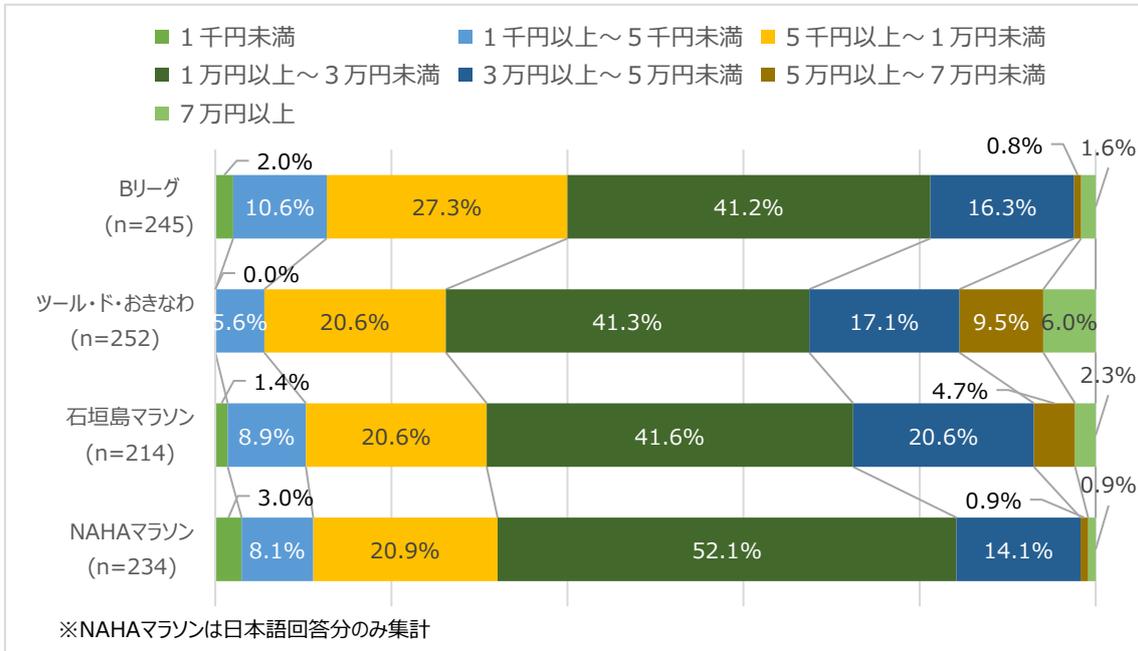
⑮ 宿泊費を教えてください。

・各大会とも「1万円以上～3万円未満」が約4割となった。



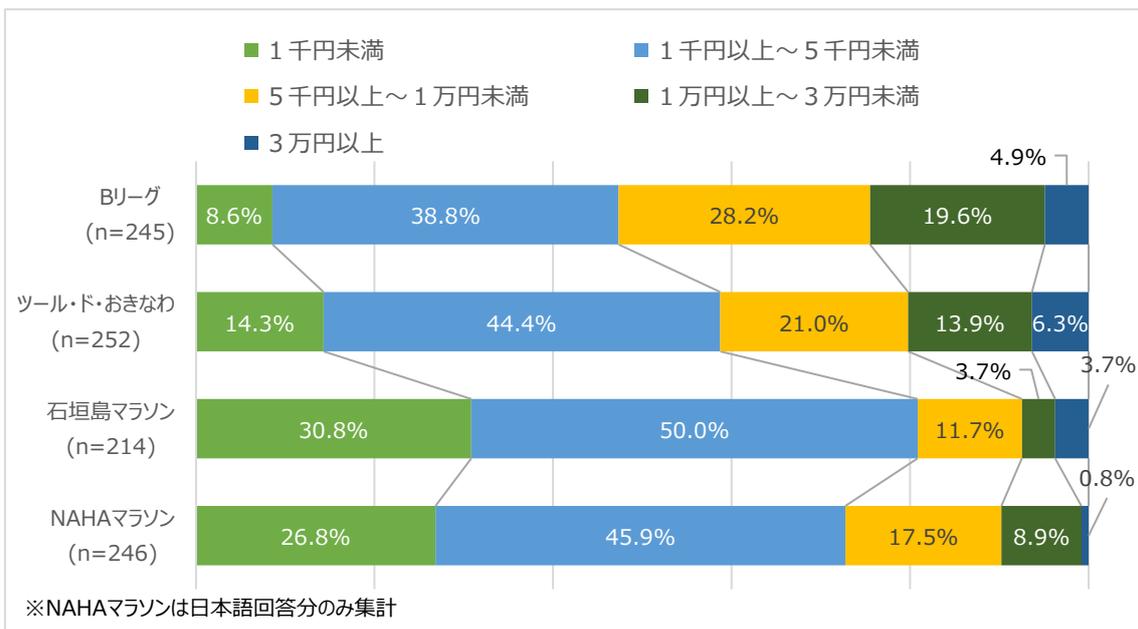
⑩ 飲食費を教えてください。

・各大会とも「1万円以上～3万円未満」が約4～5割となった。



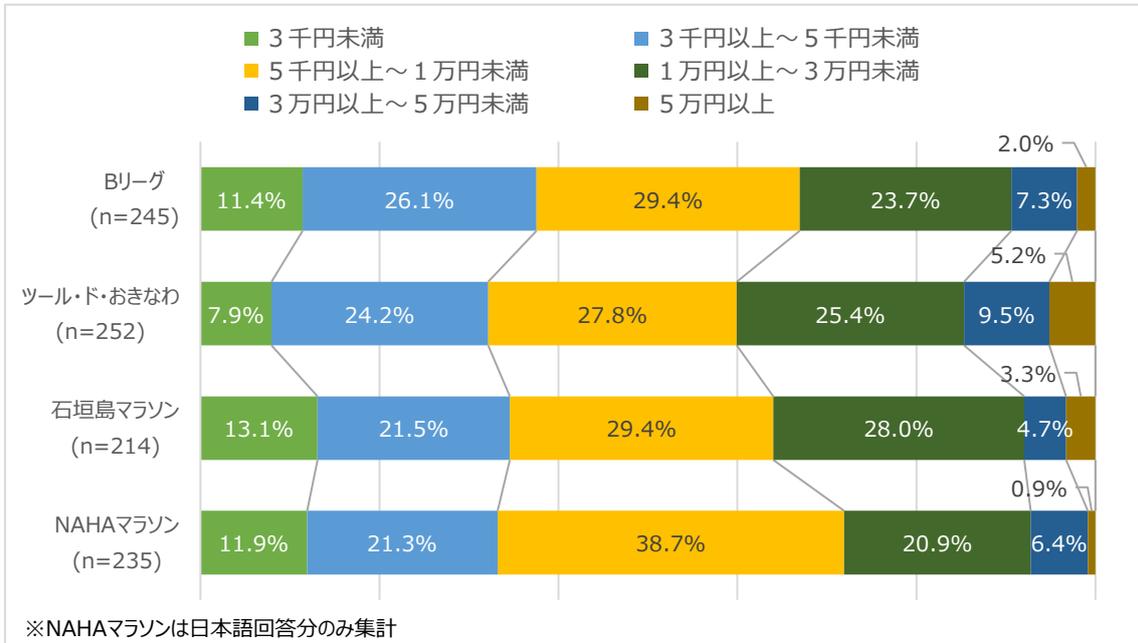
⑰ 大会会場内での消費（飲食、物販購入など）を教えてください。

・各大会とも「1千円以上～5千円未満」が約4～5割となった。



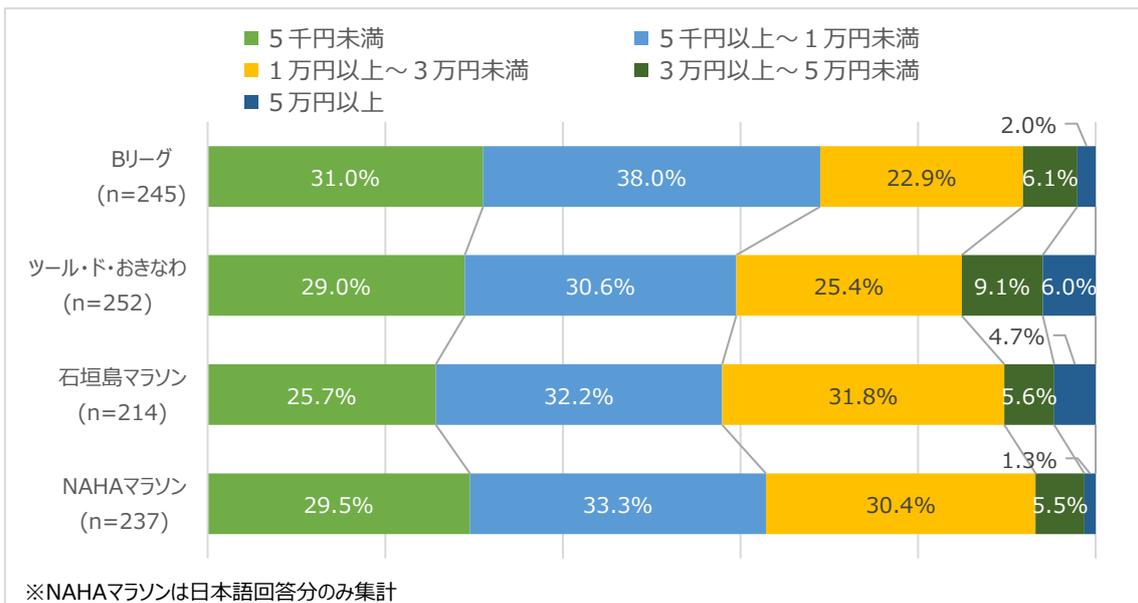
⑱ おみやげ代を教えてください。

・各大会とも「5千円以上～1万円未満」が約3～4割となった。



⑲ その他費用（娯楽、観光）を教えてください。

・各大会とも「5千円以上～1万円未満」が約3～4割となった。



⑳ 今回のご旅行を通して、沖縄県へのご意見（大会の運営以外）があればお聞かせください。（記述式）

・アンケートの回答より一部抜粋し、大会毎に記載した。

Bリーグ

- ・ 朝ごはんを食べられるところが少なかった
- ・ 交通手段(県内)が難しいです
- ・ 交通の便がよりよいとうれしいです
- ・ ゆいレールとカーシェアの連動
- ・ ゆいレールとカーシェアリングの最終駅での接続
- ・ 沖縄大好きです！車の運転が下手なので、ゆいレールがもっと延伸したらいいな…
- ・ 交通が自家用車での移動をメインにしているようなので、普段電車メインで生活している感覚だとちょっと大変でした。
- ・ 那覇市からアリーナまでの直通バスがあれば良いと思います
- ・ バスの一日乗車券があると助かります
- ・ 那覇から中部まで来るバスの本数を増やしてほしい。臨時バスなど出してほしい。
- ・ 空港からのバスの本数を増やしてくれたら嬉しいです！
- ・ バス路線図がわかりやすいとよいです
- ・ 沖縄でスポーツ大会があると観光とセットで魅力が二倍三倍で素晴らしいです！

ツール・ド・おきなわ

- ・ 自転車がある場合には空港までレンタカーの乗り入れを認めて欲しい。レンタカー会社まで乗せられないことが多いです。
- ・ 空港からレンタカー駐車場までのアクセスが悪かった。
- ・ 交通面の利便性の向上をのぞみます。
- ・ 那覇空港からのピストン送迎があれば最高だと思う。
- ・ 空港から名護までのバスに自転車が乗せづらい。複数人できたら同じバスに乗れない場合もあると思う。
- ・ パックツアーがあれば
- ・ 大会時以外のサイクリング情報などあれば良いです
- ・ 10年以上、毎年来てます。サイクルイベントをもっと増やしてほしい。
- ・ 名護がサイクリングフレンドリーな場所なこと、もっと知られてほしい！大会以外にもサイクリングツアーを組んでほしいくらいです。
- ・ 毎年おきなわ観光の機会にもなってます
- ・ 初参加ですが、今後もツールド沖縄続けてください。

石垣島マラソン

- ・ 大会用に駐車場を開放してほしいです
- ・ 八重山郡に来たついでに離島を訪問するのだが、船の便数が少なくてロスタイムが大きい。
- ・ 観光施設の新設
- ・ 観光をもっと盛り上げてほしい
- ・ いろいろなイベント芸能があればきたいです
- ・ 海岸線にゴミが目立つかな
- ・ ビーチクリーンも沖縄を訪れた方のアクティビティに加えてほしい。
- ・ マラソン応援の情報が少ない
- ・ 沖縄大好きです。自然保護をよろしくお願いします。
- ・ 石垣島良いところですよ、また来たいです。
- ・ 古き良き石垣島を残しつつ発展してほしい

NAHA マラソン

- ・ レンタカーの割引があると嬉しいです。
- ・ マラソン走った後に温泉行きたいので割引チケット入っていたら嬉しいです。
- ・ 観光の移動手段が少ないと感じる
- ・ 交通の便をよりよくお願いします
- ・ 飛行機の混雑解消
- ・ グルメ情報を知りたい
- ・ 空港の駐車場が少ない
- ・ ホスピタリティ溢れる対応有難うございます！
- ・ 宿泊代が高騰してるので、安くなってほしい。
- ・ 県民が皆さん、親切で温かい、また来てしまいました！
- ・ ホスピタリティ溢れる対応有難うございます！
- ・ Good job!
- ・ 希望台日継続友好
- ・ 非常棒謝謝

【補注】

直接支出額を求める式は以下の通りである。

直接支出額（下限）＝最低支出額×各費用帯の回答割合×参加者数

直接支出額（上限）＝最大支出額×各費用帯の回答割合×参加者数

※最低支出額：各費用内訳における最低金額

※最大支出額：各費用内訳における最大金額

※回答割合：各費用内訳の回答割合

※参加者数：各大会の県外からの参加者数